

令和2年度

事業報告及び法人会計決算（計算書類及び財産目録）



社会福祉法人 四万十市社会福祉協議会

目 次

1. 令和2年度 事業報告	1 頁
①令和2年度事業 報告附属明細書	33 頁
2. 令和2年度計算関係書類及び事業等区分一覧表	
① 〃 資金収支計算書 (第1号の1様式)	34 頁
② 〃 資金収支内訳表 (第1号の2様式)	37 頁
③ 〃 法人拠点区分資金収支明細書 (別紙3 (⑩))	40 頁
④ 〃 事業活動計算書 (第2号の1様式)	42-2 頁
⑤ 〃 事業活動内訳表 (第2号の2様式)	46 頁
⑥ 〃 法人拠点区分事業活動明細書 (別紙3 (⑪))	49 頁
⑦ 〃 貸借対照表 (第3号の1様式)	52 頁
⑧ 〃 貸借対照表内訳表 (第3号の2様式)	53 頁
⑨ 〃 財産目録 (別紙4)	54 頁
⑩ 〃 財務諸表に対する注記 (法人会計)	55 頁
⑪ 〃 監査報告書	57 頁

令和2年度事業報告（概要）

社会福祉法人 四万十市社会福祉協議会

近年、急速な人口構造や世帯構造の変化を背景に、地域社会や家族の機能の変化に加え、新型コロナウイルス感染症拡大により緊急事態宣言が出され、人との接触や外出が制限される等した結果、経済活動に大きな影響が出て、社会とのつながりが薄れ孤立や困窮する世帯が増加しました。

四万十市においても同様であり、外出の制限などから健康福祉委員会活動の自粛、高齢者はつつたデイサービスやまちなかサロン事業等が休止し、高齢者のいきがい活動に大きな影響が出た他、新型コロナウイルスの特例貸付が近隣の市町村を遥かに上回る申請が出される等、各種事業に影響が出ました。

そうした中、第3期四万十市地域福祉計画の初年度で、「誰もが安心して暮らせる笑顔あふれる四万十市」を基本理念として、市内を12圏域（中学校区）に分け、目指すべき地域の将来像の共有等を目的に、コロナ禍の中、何度も延期をしながら、住民座談会を開催して福祉計画を推進した他、4月には「しまんとマスクプロジェクト」、12月には「しまんと生活応援米プロジェクト」等コロナ禍で独自事業等も行いました。

その他の事業では、各種団体事務の会議や研修会も、中止や延期が相次ぎましたが、感染対策をとりながら最低限必要な会議等を行った他、民間が参入しない訪問入浴事業については、利用者数は低迷しておりますが経営を続けております。

法人運営に関しては、自主財源が乏しい中、四万十市からの補助金や積立金を一部取崩しながら運営しており、厳しい経営状況ではありますが、公共性の高い社会福祉法人として社会福祉法を遵守しながら、住民に頼られる社会福祉協議会を目指すための運営を行いました。

以下、令和2年度の各事業等の状況について重点目標に沿って報告します。

重点目標

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実
2. 総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進
3. 在宅福祉サービスの充実
4. 法人運営と地域福祉計画の推進

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

① 生活支援コーディネーター(SC)設置業務 (地域福祉活動事業サービス区分)

《 市受託金決算額 12,579,167 円 》 < 職員2名 >

生活支援コーディネーターは、高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的として、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築や社会資源の開拓に取り組んでいます。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「集う」ことが制限される中、生活支援コーディネーターの役割である多様な介護予防・生活支援サービスの創出や高齢者の社会参加の促進に向けて十分に取り組むことができました。

第1層推進会議では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため会の開催は1回にとどまりましたが、委員の協力のもと、「自宅で取り組める体操」に関するパンフレットを作成し、市民に向けて配布しました。また、「食の確保」に向けて協議を進めており、今年度は、食の空白地域における食の確保に関する学習会の実施や配食サービスに関するニーズ調査を実施しました。第2層推進会議は、3圏域から12圏域に細分化し、自分たちができる地域課題の解決・軽減に向けて協議が進んでおり、実際の活動にはまだつながっていないが、各地域の課題や特色に応じた地域福祉活動の創出が期待されるところです。

地区健康福祉委員会の介護予防活動の充実・強化を目的とした「介護予防サポーター養成講座」には例年以上の多くの参加者が集まりました。多様な訪問型サービスの開発に向けた「いきいき生活応援隊員養成講座」の新規過程については、高知県介護労働安定センター主催の「介護に関する入門的研修」と共同で開催し、更新過程についても例年通り開催しました。既述の養成講座で養成した人材の活動機会を創出に向けて、社協ボランティアセンターと連携を図りながら市内の事業所とのマッチングに努めています。

これまで同様、既設の健康福祉委員会の活動支援や相談対応にも取り組みました。第2層推進会議で制作したゴム体操の普及も行き、活動内容のマンネリ化に対応できるように努めました。また、年度末に未設置地区区長へのアンケート調査を実施したため、次年度以降、未設置地区へのアプローチにつなげていきたいと考えています。

< 主な活動内容 >

生活支援体制整備事業関係	件数	備考
① ニーズや地域資源情報の把握	59 件	地域ケア会議他
② サービス・支援の担い手の養成	36 件	介護予防サポーター養成講座他
③ 研修会の参加 (研修会・出張他)	21 件	
④ 関係者間との情報共有	28 件	行政・事業所他
⑤ 推進会議 (第1層・第2層)	78 件	
計	222 件	

健康福祉委員会関係	件数	備考
① 介護予防・健康推進事業への協力	85 件	介護予防体操・学習会他
② 健康福祉委員会の設立関係	4 件	
③ 意見交換会の開催・参加	25 件	
④ 活動の広報支援	14 件	「地域のいきいき活動」・社協だより
⑤ わなげ普及事業関係	6 件	わなげ交流大会他
計	134 件	

※四万十マスクプロジェクト R2/4/30~7/31 約1,500枚の手作りマスクを教育委員会を通じて子ども等へ配布

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

② コミュニティソーシャルワーカー (CSW) 設置事業 (地域福祉活動事業サービスクラス)

《 市受託金決算額 6,708,394円 》 < 職員1名 >

個別支援については、ワンストップで分野を問わず相談・支援を行うことや、各分野間の相談機関で連携を密にとることにより、対象者やその世帯について、分野横断的かつ包括的な相談・支援の実現に向けて、専門職や関係機関をつなぎ、課題解決のためのネットワークづくりを努めています。地域住民や関係機関から寄せられる情報をもとに介入して、支援を行います。制度の狭間の課題として代表される「ゴミ屋敷」の課題が多く寄せられるようになっており、実際に、多職種連携により解決できた事例もあれば、ゴミの問題を本人が認識しておらず、支援がスムーズに進んでいない事例も残されています。コミュニティソーシャルワーカーの配置により、社協としても個別支援の幅が広がった1年となりました。

CSWに寄せられる個別課題を起点に、関連する専門職との「多職種連携」は、スムーズに行えるが、「地域連携」が不十分となっており、未だに制度サービス頼りで、住民力を活かす状況があります。要因としては、数ある個別事例検討会に地域住民の参加がなく、専門職だけの会になっていることが挙げられます。このような課題を受け、要援護者を地域でどのように支えていくか、地域住民と一緒に協議するための「地域福祉ネットワーク会議」を住民の身近な圏域である自治会単位で設置していく方向となっており、当該会議を「地域連携」を推進していくツールとして展開し、地域で発生する個別課題を「我が事」として捉え、課題の解決のための支え合いの仕組みづくりを「多職種連携」と「地域連携」の両輪で推進していかねばと考えています。

< 主な活動内容 >

- ・介入実人員 27名
- ・延支援回数 746回

内 容	件 数	備 考
延べ訪問相談件数	266 件	
延べ来所相談件数	131 件	
関係機関等との連携	318 件	情報共有他
ケース会議他	31 件	困難事例の検討他
地域福祉ネットワーク会議	0 件	R 3 年度設置予定
地域福祉計画関連業務	150 件	座談会の開催・調整他
研修会への参加	17 件	
計	913 件	

1.地域福祉の推進とボランティア活動の充実

③高齢者閉じこもり等予防支援業務事業 (地域福祉活動事業サービズ区分) <職員1名>

《市受託金収入 6,375,329 円 サービズ区分間繰入金収入 323,208円 決算額 6,698,537円》

この事業は、閉じこもり等支援が必要な高齢者を効果的かつ有効な方法で早期把握し、介護予防活動等へ繋ぐことで、要介護状態に陥ることとを防ぐことを目的としています。民生委員や健康福祉委員会等から聞き取った情報をもとに訪問し、必要に応じて、他機関や制度等へのつなぎを行います。あつたかふれあいセンター等の集いの場や地域包括支援センター等の専門機関につなぐことで、閉じこもりがちな高齢者の社会参加や介護予防、重度化防止に寄与していると考えます。

定期的開催した閉じこもり報告会では、高齢者支援課・地域包括支援センター・あつたかふれあいセンターと支援内容の検討等を行い、多職種多機関との連携をはかることで、対象者により適した支援を提供することができています。

項 目	H29年度	H30年度	項 目	R1年度	R2年度
個別訪問件数	355	387	個別訪問件数	224	374
うち新規件数	110	77	うち新規件数	67	86
うち終了件数	103	55	うち終了件数	73	89
他機関への繋ぎ等件数	43	18	継続訪問者翌年度繰り越し数	4	1
事業説明・聞き取り等訪問件数	53	35	住民情報聞き取り地区数	21	13
定期閉じこもり報告会等(回)	12	12	定期閉じこもり報告会等(回)	12	8
個別ケース検討会(回)	5	19	個別ケース検討会(回)	5	13
緊急通報装置撤去作業件数	10		その他会議・研修参加	16	26

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

④ 中村地域配食サービス事業

(共同募金事業サービス区分)

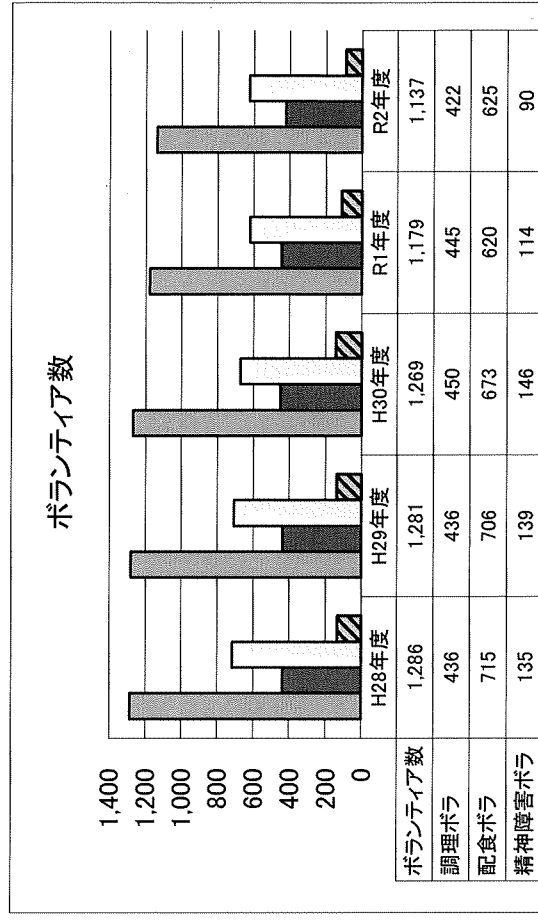
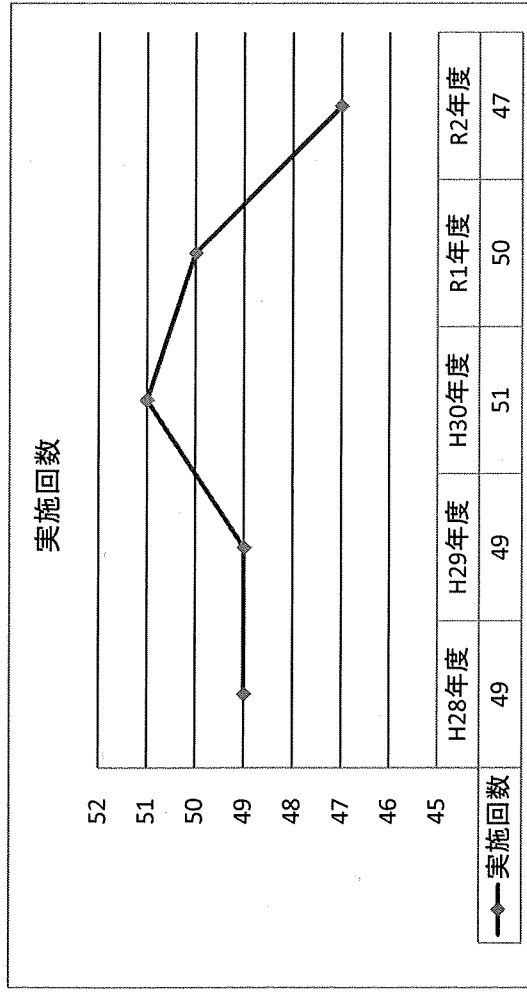
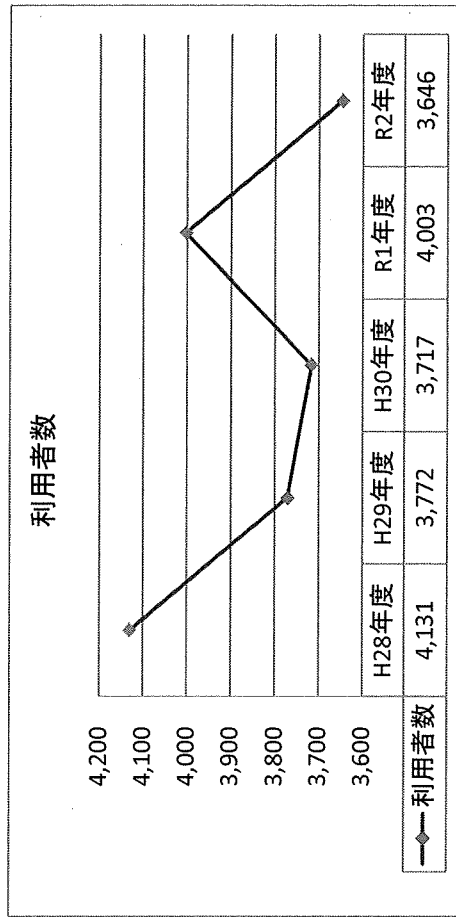
〈パート1名 調理ボランティア9名 配食ボランティア14名〉

《 会費収入 343,000円 市補助金 155,413円 共同募金配分金 1,103,000円 利用者負担額 1,093,800円 決算額 2,695,213円 》

75歳以上の在宅で一人暮らしの高齢者や重度の障害者世帯に
対し、毎週水曜日にボランティアの協力を得て、安否確認を目的に配食サービスを実施しております。(新型コロナウイルスの関係で、4/22・5/13・20の3回は休止しました。)

令和3年3月末の登録者は102名、1回の平均利用者数は77.6名でした。通院や他の福祉サービスの利用で、単発的に利用をしないことから、利用者数は減少しています。

配達のボランティアは、主に民生委員の協力が得られており、ますが、調理ボランティアの方の新規登録が少ない状況で、年間を通して呼びかけましたが、十分な人数が確保できていないことから、次年度も引き続き広報等にて募集を行う予定です。



1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑤ ボランティアセンター事業（ボランティア活動事業サービ《職員1名》

《 市補助金収入 5,371,000円 会費収入 120,000円 共同募金配分金 198,000円 その他の収入 888,835円 決算額 6,577,835円 》

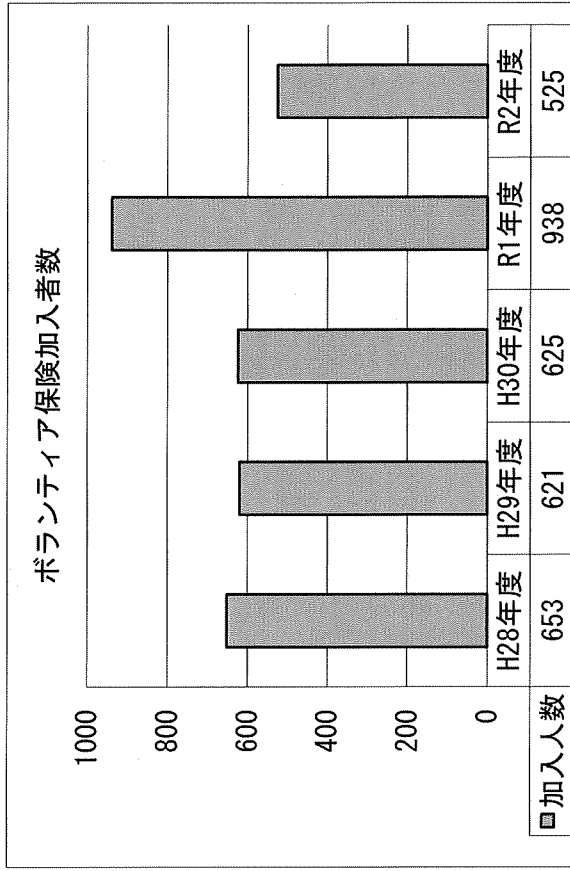
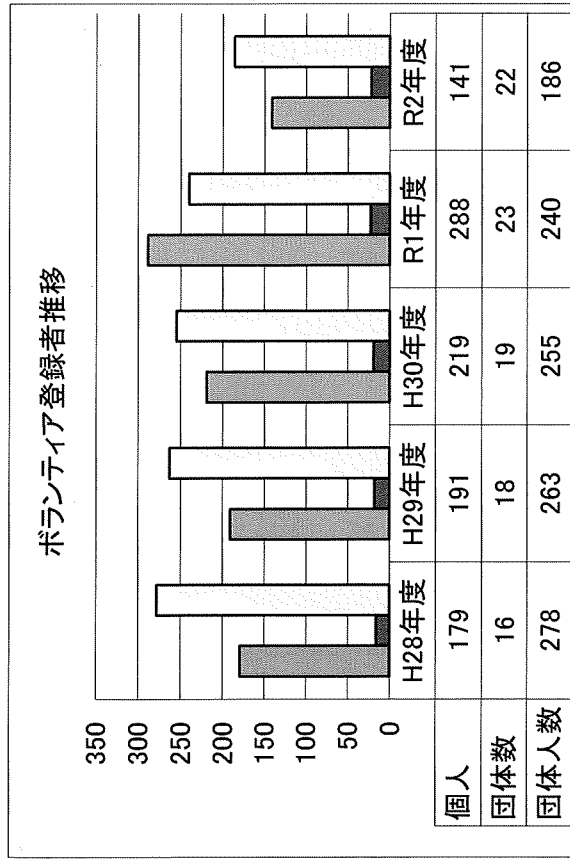
新型コロナウイルス感染拡大に伴い、前半は活動ができないう状況となっていました。徐々に傾聴ボランティアの活動も再開し始めました。施設訪問はできませんでしたが、個人宅訪問は地域包括支援センターや高齢者閉じこもり等予防支援業務事業からの紹介があり、活躍の場が広がっています。毎月自主的に開催している定例会も再開し、スキルアップと自主性を高めることも継続しています。

災害ボランティアに関する研修会は新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催することはできませんでしたが、3地区で「避難所運営ゲーム」を実施し、防災意識を高めることができました。災害ボランティア事前登録は新たに2名が登録してくれました。新型コロナウイルス感染症の状況下では、県外からのボランティアが増やしていき、登録団体に研修会等から、高校や農業協同組合に団体の災害ボランティア事前登録を提案し、登録していただきました。団体の事前登録を高め、登録団体の増加を促し、地域として防災意識がより高まるよう取り組んでいきます。

高知県社会福祉協議会主催のナツボラにママ&チャイルドに参加し、高校生ボランティアの参加が多くありました。ボランティア活動の場が近くなることで、将来に活かすためのボランティアをしたいと、学生もボランティアに興味がある方が多くなくなり、地域福祉の推進につながっています。施設や学校からのボランティアの派遣するコーディネーターの役割も果たしています。

- ・ 傾聴ボランティア 個人宅訪問実利用者数 9名 訪問者延36名
- ・ 避難所運営ゲーム 3地区 参加者延35名
- ・ 「ナツボラ」参加学生ボランティア 12名
- ・ 災害ボランティア事前登録者総数 20名 団体登録 2団体

定例会 9回 参加者延47名



※R1年度から加入人数は、間接的に加入している人数も含んでいます。

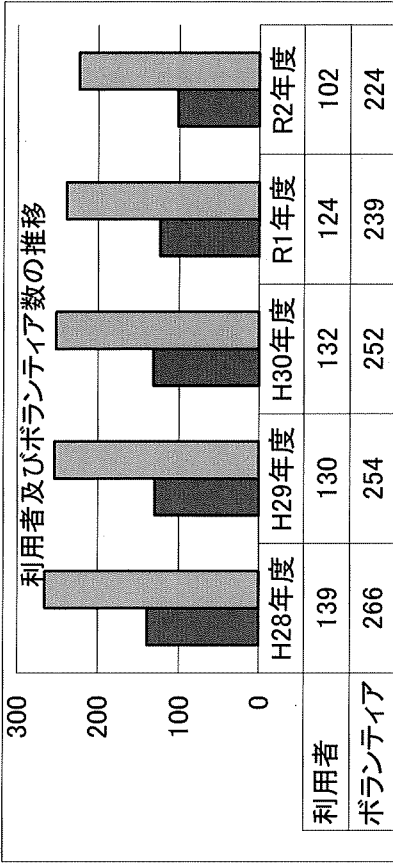
1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑥障害者等サービス事業（共同募金事業サービス区分）

《 会費収入 38,000円 共同募金配分金 38,000円 決算額 76,000円 》

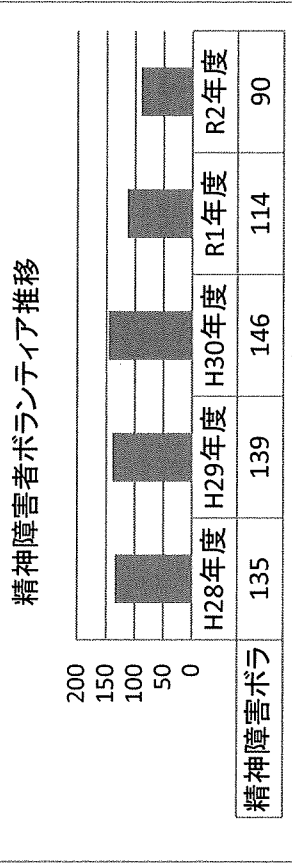
朗読サービス事業

朗読ボランティアの協力により、情報不足になりがちな視覚に障害のある方等に、毎月市の広報と社協だよりをCDに録音して送付し、日常生活に必要な情報提供を行いました。
また、市図書館にも毎月朗読CDを送付して市民への貸出も行ってまいります。利用している方からは、四万十市の様子が分かって助かっていますと喜びの声が届いています。
実利用者 9名



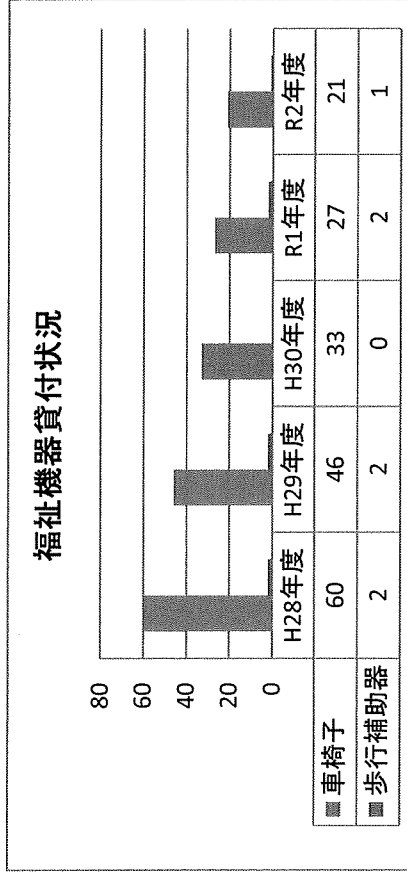
精神障害者社会参加事業

精神障害者の社会参加を目的に、配食サービス事業の弁当の配達を行い、社会参加のきっかけ作りとしています。当事者の体調等により変化があるので、職員がサポートをしながら行いました。
(配食サービス事業でも再掲)



福祉機器貸付事業

身体機能の低下した障害者や高齢者等の生活支援の為、車椅子等を一定期間無料で貸し出し、日常生活の利便を図り、生活の質の向上と併せて介護者の負担軽減に努めました。



1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑦福祉教育の推進（共同募金事業サービス区分）

《職員兼務2名》

市内小・中学校の児童生徒に、ボランティア活動等の意義や福祉への理解を高め、児童生徒を通じて家庭及び地域社会の啓発を図ることに努めました。今年度は新型コロナウイルスの感染に伴い、1学期は授業の遅れを取り戻すなどの理由が想定され依頼はありませんでした。2学期からは依頼が増え、前年度から看護学校での高齢者疑似体験も継続できたり、体験学習を通して地域と関わり、必要の必要やボランティア活動の促進についても啓発を図り、また、各学校からの依頼に基づき各種体験学習を行いました。また、今年度、障がい者スポーツや地域との交流などプロگرام内容を更新し、ガイドブックを作成しました。その効果がよくなり、視覚障がい者体験やポッチャなど新しい依頼が増えています。

地震防災課・日本赤十字社と連携して、避難所運営ゲームを3地区で行いました。実際に発災した際にどのように動くべきか、どんな苦勞があるかを想定していただき、防災に向けての学びにつながりました。なお、毎年参加していた四万十玉姫の会主催の「まちづくり人生ゲーム」は新型コロナウイルスに伴い、中止となりました。

また、看護専門学校や大学の社会福祉士を目指す学生を受け入れて、社会福祉協議会の役割や地域福祉についての教育の場としております。

学校名等	体験学習等				人数	備考
	実施日	内容	学年	人数		
中筋小学校	R2. 6. 9	手話学習	全学年	36名		
西土佐中学校	R2. 6. 23	高齢者疑似	2年	16名		コロナに伴い、物品貸出のみ
高知県立大学	R2. 8. 19～	相談援助実習	3年生	1名		延24日間
四万十看護学院	R2. 10. 2	高齢者疑似	2年	40名		
中村小学校	R2. 11. 19	高齢者疑似・車いす	5年	30名		
田野川甲地区	R2. 11. 7	避難所運営ゲーム	-	11名		
串江地区	R2. 11. 22	避難所運営ゲーム	-	17名		
古津賀2丁目地区	R2. 11. 29	避難所運営ゲーム	-	7名		
西土佐小学校	R3. 1. 13	高齢者疑似・車いす	1・2年	18名		
幡多看護専門学校	2021/1/18～	老齢看護実習	2年	6名		延2日間
藤岡小学校	R3. 1. 23	視覚障害	3・4年	9名		
利岡小学校	R3. 1. 26	高齢者疑似	3・4年	8名		
八東小学校	R3. 2. 4	視覚障害・車いす	5年	7名		
東中筋小学校	R3. 2. 8	高齢者疑似・ポッチャ	3・4年	10名		
竹島小学校	R3. 2. 24	避難体験	6年	5名		
合計				221名		

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑧ ゆずります・ゆずってくださ事業（共同募金事業サービズ区分《職員兼務1名》）

家庭や企業で眠っている貴重な資源について新たな活躍の場が見つかるように「情報の収集とその情報の公開」を社協だよりで行いました。「ゆずります登録カード」、「ゆずってくださ登録カード」に書いてもらった情報が一致した時に双方へ再確認したうえで、無料で物品を引き取り、無料で届けていきます。生きた物や植物、大きい物や危険物など取り扱いの難しい物もあります。少しづつ市民の方へ浸透していきながら思っています。また、物品を届けた際には非常に喜んで受け取ってくれて好評です。今後実施していきます。

- ゆずります登録カード受取数 27枚
- ゆずってくださ登録カード受取数 41枚

番号	物品名	配達地区名	番号	物品名	配達地区名
1	点字ブロック	中村	16	県立中村中学校制服	中村
2	ミシン(足踏み式)	東山	17	自転車	中村
3	シルバーカー	中村	18	国語辞典	中村
4	ど忘れ辞典セット	中村	19	シルバーカー	東山
5	炊飯器	中村	20	チャイルドシート	西土佐
6	シルバーカー	東中筋	21	液晶カラーテレビ	西土佐
7	ど忘れ辞典セット	東山	22	漢和辞典	西土佐
8	綿布団上下	中村	23	電気ストーブ	西土佐
9	サンダル	八東	24	ノートパソコン	中村
10	シルバーカー	西土佐	25	介助式車椅子	中村
11	サンダル	西土佐	26	カラーテレビ	東山
12	野球カードセット	西土佐	27	半長靴	後川
13	冷蔵庫	下田	28	サンダル	後川
14	炊飯器	西土佐	29	ベースギター	八東
15	冷蔵庫	中村	30	ベースギター用アンプ	八東

1. 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑨地域福祉の推進（法人運営及び共同募金配分金サービス区分）

《福祉活動事業 会費収入 20,000円 共同募金配分金 68,000円 決算額 88,000円》

本年より西土佐地域社会福祉大会に替わる支所での新規事業として福祉健康講座を実施しました。内容は新型コロナウイルス感染症対策として、できるだけ3密を避けるよう、回数を分け、少人数で実施できる介護と在宅医療に関する映画の自主上映会を開催しました。来場者数は少ないながらも、来場者からは「感動した」「泣かされた」「またやる時には教えてよ」と大変喜んでもらうことができました。

健康福祉地域推進事業では、4地区の委員会からの依頼を受け、介護予防のレクリエーションやゲーム、健康づくり事業での「低栄養」や「フレイル」の学習会に協力しました。

ボランティアセンターの機能として、例年、福祉施設や小学校からの依頼に応え、ボランティアを派遣していただきますが、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止となりました。

新型コロナウイルス感染症による特例貸付は15名が利用し、総合支援資金の再延長までの利用が1名となりました。

日常生活自立支援事業及び成年後見事業に関しては、利用者に増減も変更もなく、同じ利用者の支援を実施しています。

- ・ボランティア団体支援
やすらぎの会、JAこだま会

事業名	内 容			場 所		回 数		延 べ 人 数		備 考
	内容	支所	会議研修室	回数	延べ人数					
福祉健康講座	映画自主上映会	支所	会議研修室	2日 4回	44名				10/30・31開催	
健康福祉地域推進事業に協力	介護予防事業に協力	各地域の集会所		5回	49名				4地区	
ボランティアセンター機能	話し相手 嬉しいもの カラオケ 読み聞かせ 合計	ティンビーセンター 特養かわせみ ケアハウス 西土佐小学校		- - - - -	- - - - -				新型コロナウイルス感染症の影響により全て中止	
事業名	内 容			場 所		回 数		延 べ 人 数		備 考
事業名	内容	支所	会議研修室	回数	延べ人数					
高齢者閉じこもり等予防支援	関係機関との情報交換及び対象者宅訪問				0件					
ふれあい相談	電話や来所による相談				10件					
訪問相談・支援	相談業務等に関連し訪問				2件					
フードバンク事業	登入れ				7件					
生活福祉資金貸付	利用者 問合せ・相談等 福祉資金の貸付				1名					
新型コロナウイルス特例貸付	緊急小口資金	申請件数			15件					
	総合支援資金	申請金額			2,700,000円					
	総合支援資金(延長)	申請件数			6件					
	総合支援資金(再延長)	申請金額			3,450,000円					
	生活資金の貸付(特別小口含)	申請件数			3件					
小口生活資金貸付	生活資金の貸付(特別小口含)				1,650,000円					
日常生活自立支援事業	相談・支援利用者				1件					
成年後見事業	相談・支援利用者				450,000円					
車イス貸出	短期使用者に貸出				0件					
					12件					
					1名					
					39日					
					1名					
					13件					

1 地域福祉の推進とボランティア活動の充実

⑩法人運営（法人運営サービス区分）

西土佐支所にて実施した各団体事務と、関係機関との会議等の状況は以下のとおりです。

【団体事務】

西土佐地域老人クラブ連絡協議会(四万十市老人クラブ連合会)

会長会(5/29, 3/19)、監査(4/21)、ゲートボール大会(6/8, 11/12, 1/20, 3/18)

《市老連》役員会(4/7, 7/2, 9/3, 11/5, 1/7, 3/4)、定期総会(6/12)、若手・女性委員合同総会(6/4, 2/5)

男の料理教室(6/19, 7/17, 9/18, 10/16, 11/20)、シルバークリハビリ体操(6/8, 7/13, 9/14, 10/12, 11/9, 1/12, 2/8, 3/8)、フラダンス体験会(8/11, 1/12)

体力測定(8/25)、健康管理研修(9/23)、ゲートボール大会(10/15)、ワナゲ大会(10/23)、グラウンドゴルフ大会(11/26)

県老人クラブ大会(11/12)

西土佐地区民生委員児童委員協議会

定例会(4月文書開催, 6/26, 10/21, 3/5)、監査(4/9)、総務部会(8/21)、高齢障害部会(8/27)、女性児童部会(8/28)、就学前児童保護者との顔合せ(11/17)、法定民児協会長・副会長等研修会(11/24)、新任(2年目)研修(11/4)、臨時役員会(2/4)、幡多ブロック研修関係(2/25)

四万十市身体障害者連盟 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により総会他中止

日本赤十字社 災害等無く、活動無し

共同募金委員会 街頭募金(10/3)、特別募金(11/27)、学校募金(小12/18, 中12/25)

【関係機関との会議等】

地域課題検討会(6/2, 7/16)、小中学校支援地域本部運営協議会(6/30, 2/22)、社会を明るくする運動出発式(7/1)、青少年育成会議関係(7/14)

介護予防サポーター養成講座(7/28)、福祉計画関係(座談会(9/3, 3/9))、旧第2層推進会議(8/5, 9/1, 10/20, 10/27, 11/9, 3/29・30)

24時間テレビ関係(9/7)、認知症家族の会たんぽぽ交流会(9/30)、じんけんフェスティバル関係(11/6)

幡多地域四者会・成年後見制度利用促進計画意見交換会(1/14)

2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

①ふれあい相談センター事業（共同募金事業サービス区分）

《 会費収入 189,000円 共同募金配分金 195,000円 決算額 384,000円 》

一般相談	毎週 月～金曜日	午前 8 時30分～午後 5 時15分	(四万十市社会福祉センター 本所)
法律相談	月/2回 第1・3月曜日	午後 1 時30分～午後 3 時30分	(四万十市社会福祉センター 本所)
支所相談	毎週 月～金曜日	午前 8 時30分～午後 5 時15分	(四万十市総合福祉センター 支所)

一般相談については、対応職員を決めず来所や電話の相談を基本に、必要に応じて訪問による対応で実施していますが、数字だけ見ると非常に少なくなっています。新型コロナウイルスの影響により生活福祉資金特例貸付の相談対応が大幅に増えたことや、コミュニティセンターシャトルワーカーが窓口となって多くの相談を受けていることなど要因は様々ですが事務所対応は少なくなりましたと捉えています。また、法律相談については1回につき上限4名として毎月2回実施していますが、相談者が多く住民からは問題が解決して良かったと喜んでいただいている事業で今後も実施してまいります。

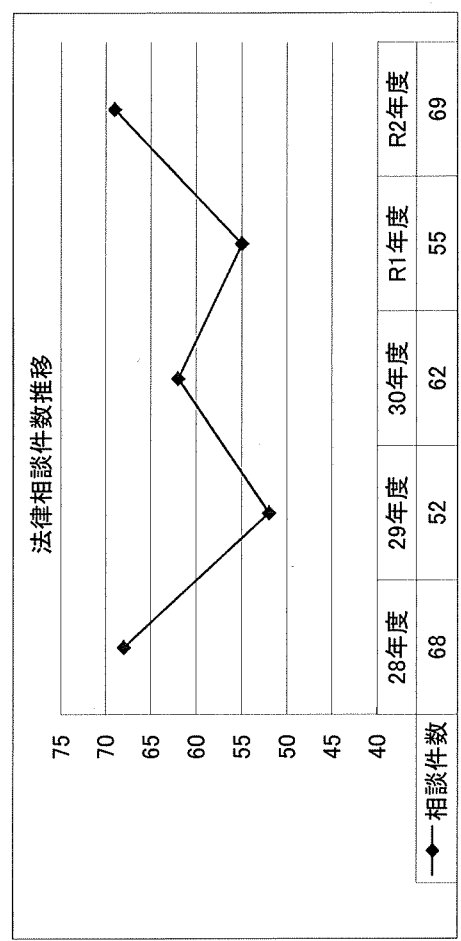
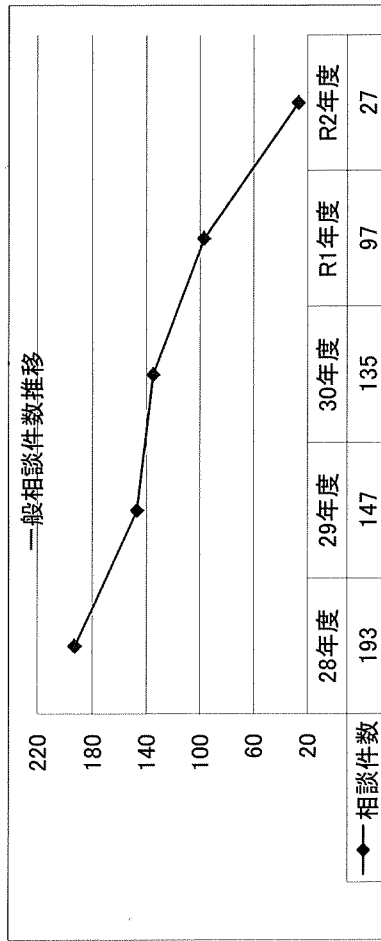
28年度		29年度			30年度			
1	金銭問題	51	1	生活問題	34	1	フードバンク	93
2	生活問題	37	2	金銭問題	29	2	生活問題	19
3	家族・結婚・離婚問題	14	3	職業・生業問題	11	3	金銭問題	8
			3	介護保険・老人福祉問題	11			

R1年度		R2年度			
1	家計・金銭問題	43	1	家計・金銭問題	7
2	生活問題	22	2	家族関係・離婚・結婚問題	5
3	家族関係・離婚・結婚問題	12	3	職業・仕事問題	4

※1 一般相談については、職員が対応

※2 法律相談については、弁護士が対応

中村ひまわり基金法律事務所・法テラス中村法律事務所・四万十法律事務所の弁護士が輪番対応



2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

②福祉サービス利用援助事業 (福祉サービス利用援助事業サービス区分)

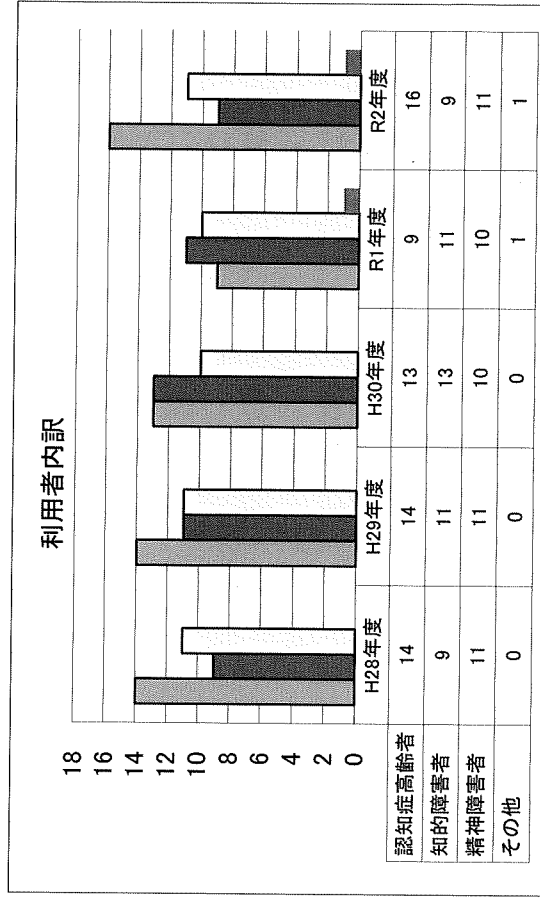
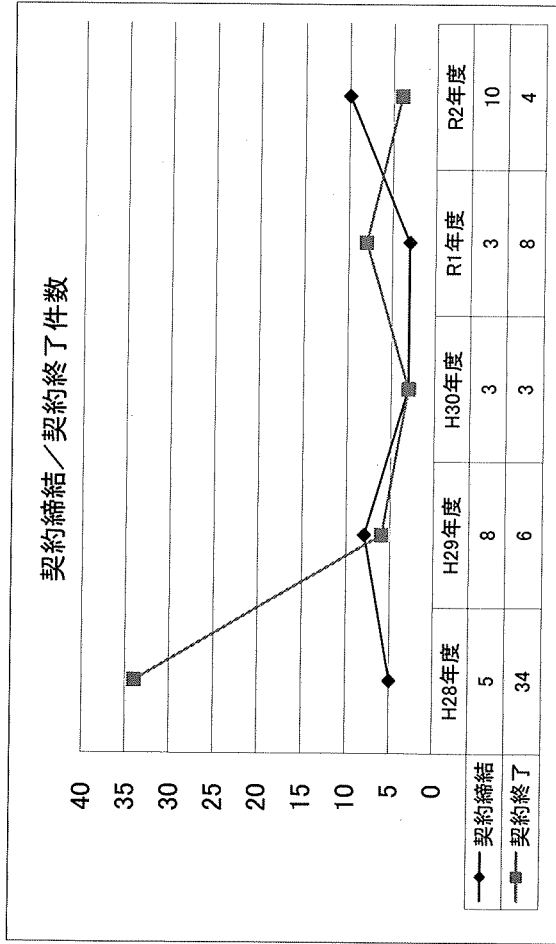
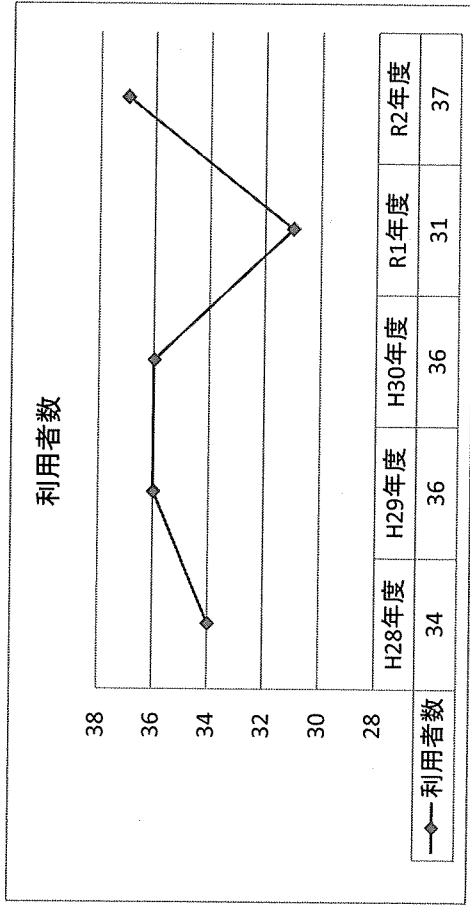
〈職員2名〉兼務

《 県社協受託金 3,373,000円 利用料 250,250円 後見報酬 1,884,727円 市補助金 2,556,758円 その収入 90,000円 決算額 8,154,735円 》

認知症や知的障害・精神障害等により判断能力が不十分な方に対して、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理を行い、地域で自立し、安心して暮らせるように利用者の支援を行います。

今年度も昨年同様、各関係機関からの相談件数が多くあり、内容として家庭環境が複雑で専門職でないと対応できない案件が多く、面談やケース会等時間を費やしました。結果的に新規契約が増え、契約終了が減ったことから、前年度より利用者数が増加しております。

- ・相談支援件数他 2,267件
- ・新規契約件数 10名
- ・契約終了者数 4名
- ・年度末利用者数 37名 (内書類預りのみ利用者5名)



2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

③法人後見事業 (福祉サービス利用援助事業サービス区分)

〈職員7名兼務〉

《 後見報酬収入 1,884,727円 》 (福祉サービス利用援助事業再掲)

認知症・知的障害・精神障害等、意思決定が困難な人の判断能力を補うため、成年後見人、保佐人又は補助人になることにより、その人の財産管理や身上監護を行い、その人の権利を擁護することを目的に支援を行ってまいります。

対象者の要件として、四万十市在住で紛争性がなく、身上監護と日常的な金銭管理を中心に市長申立てをされる方等を中心に受任をしております。今年度から受け持つていなかつた職員に兼務で後見業務を行ってまいります。

・新規契約件数 2名 ・契約終了者数 1名 ・年度未受任者数 10名

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度
問合せ件数	10	4	9	5	15
支援回数	229	357	392	457	414
新規契約数	1	2	3	1	2
契約終了	0	1	0	1	1
実受任者数	5	6	9	9	10

※後見対象者 判断能力が欠けているのが通常の状態の方
 ※保佐対象者 判断能力が著しく不十分な方
 ※補助対象者 判断能力が不十分な方

	受任時年齢	類型	障害等	審判到達日	申立人	現在の状況等	地域包括 利用経緯等	備考
26年度	88歳	後見	認知症	H26.5.26	四万十市長	施設	地域包括	R2/12/14死亡
	86歳	後見	認知症	H26.11.21	配偶者	施設⇒病院	家庭裁判所	H27/4/14死亡
	82歳	後見	認知症	H27.3.11	四万十市長	病院	地域包括	H27/6/14死亡
27年度	86歳	後見	認知症	H27.7.27	甥	在宅⇒施設	家庭裁判所	
	91歳	後見	認知症	H27.12.25	四万十市長	施設	地域包括 (福祉サービス利用者)	
	64歳	後見	知的障害	H27.12.25	四万十市長	施設	地域包括 (福祉サービス利用者)	
28年度	84歳	後見	認知症	H28.12.15	四万十市長	施設	地域包括 (福祉サービス利用者)	H30/3/30死亡
	86歳	後見	認知症	H29.5.1	四万十市長	施設	地域包括 (福祉サービス利用者)	
29年度	81歳	後見	認知症	H29.6.14	四万十市長	在宅⇒施設	地域包括	
	77歳	後見	認知症	H31.3.19	四万十市長	施設	地域包括 (福祉サービス利用者)	R1/11/30死亡
30年度	87歳	後見	精神障害	H31.3.28	四万十市長	在宅⇒施設	地域包括 (前福祉サービス利用者)	
	50歳	後見	知的障害	H31.3.28	四万十市長	病院	地域包括 (福祉サービス利用者)	
令和元年度	74歳	後見	知的障害	R1.10.1	四万十市長	施設	地域包括 (福祉サービス利用者)	
	64歳	後見	知的障害	R2.7.15	四万十市長	在宅	福祉事務所	
2年度	99歳	後見	認知症	R2.10.1	四万十市長	施設	地域包括	

2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

④小口生活資金貸付事業（貸付事業サービス区分）

低所得者等に対し、短期の生活資金貸付と相談援助を行うことにより、生活の安定を図ることができ、生活資金貸付事業の要綱を一部改正し、生活保護世帯又は保健世帯の申請に小口生活資金として貸付を行うように対応をいたしました。令和元年3月25日より新型コロナウイルスの生活福祉資金（特例貸付）が始まり、高知県社会福祉協議会、自立相談支援機関と連携して貸付対応を行いました。

※ 資産の状況（令和3年3月31日） ※令和2年度 相談者数 158名

・預金残高 3,639,123円

※ 小口貸付等の状況

・相談件数 129件
 ・貸付額 1,776,000円(33件)
 ・貸付残額 479,150円
 ・償還終了件数 24件

※ 特別小口貸付等の状況

・相談件数 1件
 ・貸付額 5,000円(1件)
 ・貸付残額 5,000円
 ・償還終了件数 0件

《 県社協受託事業決算額 3,057,000円 うち特例貸付事務実績額 2,146,000円 》

低所得者等に対して、資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより、経済的自立、生活意欲の助長促進並びに社会参加の促進を図り、安定した生活を送れるようにすることを目的としています。令和2年3月25日より新型コロナウイルスの生活福祉資金（特例貸付）が始まり、高知県社会福祉協議会、自立相談支援機関と連携して貸付対応を行いました。

【令和2年度貸付等の状況】 ※支所含む

* 問合せ・相談件数 324件
 * 申請件数 12件
 * 貸付件数 12件 (合計 3,715,000円)
 (内訳)
 教育支援資金 2件 (2,545,000円)
 福祉費 4件 (795,000円)
 緊急小口資金 6件 (375,000円)

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	前年度比 R2年-R1年
貸付件数	6	3	4	9	33	24
貸付額	505,000	220,000	330,000	306,000	1,776,000	1,470,000

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	前年度比 R2年-R1年
償還完了件数	4	6	4	8	24	16
償還額	373,000	460,000	239,512	362,575	1,421,950	1,059,375
内延滞利子	18,000	20,000	1,057	130	0	-130

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	前年度比 R2年-R1年
年度末貸付件数	6	3	3	3	13	10
貸付残額(元金)①	330,000	110,000	201,545	145,100	479,150	334,050
延滞利子②	117,911	98,096	0	0	0	0
年度末残額①+②	447,911	208,096	201,545	145,100	479,150	334,050

新型コロナウイルス感染症の影響による生活福祉資金（特例貸付）

特例貸付が令和2年3月25日より始まり、新型コロナウイルスの影響で収入が減少した世帯に対して、緊急小口資金は最大20万円、総合支援資金は最大60万円の貸付を行いました。さらに、総合支援資金は延長が2回可能となり最大合計200万円の貸付を行っています。また、特例貸付に関する問い合わせも非常に多く相談員数名で対応を行い、貸付申請や生活困窮事業所など関係機関に繋ぎ連携して支援をしています。

【特例貸付】※令和3年3月31日時点（支所含む）

* 申請者数(延べ) 369名 (66,250,000円)
 緊急小口資金 535名 (282,200,000円) ※延長貸付を含む
 総合支援資金 904名 (348,450,000円)

* 申請者数(実人数) 376名

2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

⑤フードバンク事業（貸付事業サービス区分）

フードバンク事業では、生活に困窮し日々の食の確保に困る人たちを対象に、住民からの寄付や関係機関から寄せられる食料品を無償で提供しています。また、令和2年度からは市内の社会福祉法人でも食料品の受け入れ窓口として協力をいただきました。

地域住民から寄せられる生活困窮者等の一般相談について、当事業と合わせて必要な場合は、他の社協事業や生活困窮者自立支援事業所、福祉事務所と連携を図り、潜在化しがちな生活困窮者のニーズへ早期に対応できる体制を取っています。

令和2年度は、通常のフードバンク事業に加え、コロナで影響を受けた生活困窮者等の世帯を対象に当事業で寄付いただいた食料品と赤い羽根共同募金の特別助成で購入した食料品20万円分を『生活応援米』として、合計2回延べ102世帯に配付しました。

フードバンク寄付 実績数

受付先	H30年度		R1年度		R2年度	
	延べ件数	重量換算	延べ件数	重量換算	延べ件数	重量換算
社協	17件	276.80 kg	36件	696.30 kg	71件	521.15 kg
四社連					18件	141.00 kg
FDキャンペーン	9件	397.80 kg	9件	108.80 kg	29件	209.80 kg
合計	26件	674.60 kg	45件	805.10 kg	118件	871.95 kg

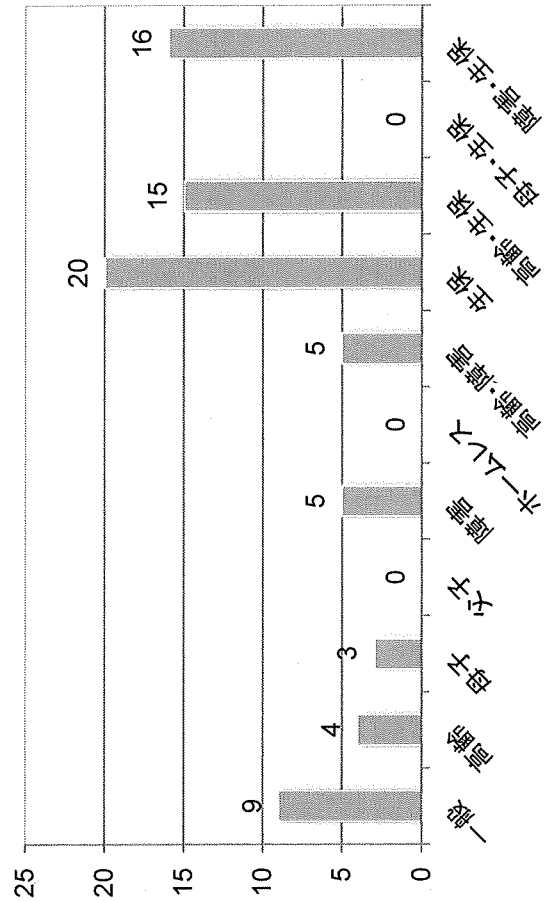
フードバンク提供 実績数

個人	H30年度		R1年度		R2年度	
	施設	計(延べ)	施設	計(延べ)	施設	計(延べ)
施設	1件	92件	1件	81件	0件	77件
計(延べ)		93件		81件		77件

※令和2年度は、コロナ影響の困窮世帯102世帯へ食糧支援

【フードバンク提供(世帯別)】

世帯	件数
一般(困窮)	9件
高年齢	4件
母子	3件
父子	1件
障害	5件
ホームレス	1件
高年齢・障害	5件
生保	20件
高年齢・生保	15件
母子・生保	1件
障害・生保	16件
(生保)計	(51件)
延べ件数	77件



2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

⑥福祉人材バンク事業（福祉人材バンク事業サービス区分）〈職員1名兼務〉

《 県社協受託金 4,227,000円 市補助金収入 1,881,162円 サービス区分繰入金 512,000円 その他の収入 13,590円 決算額 6,633,752円 》

無料職業紹介事業では幡多6市町村と四万十町を管轄区域として、求職登録者が希望する求人に応じて福祉・介護の職場へとつなげました。平日は常時窓口での相談を行い、広報誌等への周知や関係機関との連携により登録者の確保と求人情報の提供を行いました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から相談会を中止し、代わりにハローワーク四万十と共催で、『ふくしの仕事広報誌』を作成し、介護事業所PRと求人情報の提供を行いました。さらに、7月と12月に高知県人材センターと主催で開催したふくし就職フェア（WEB）と、2月から3月開催のふくし就職フェアコンソールの広報、周知活動も行いました。

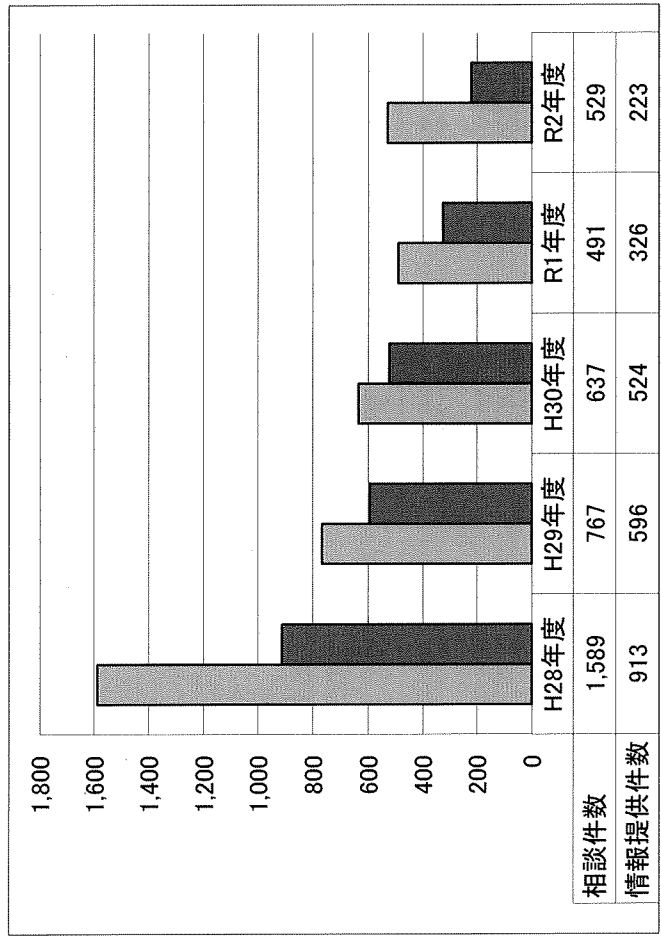
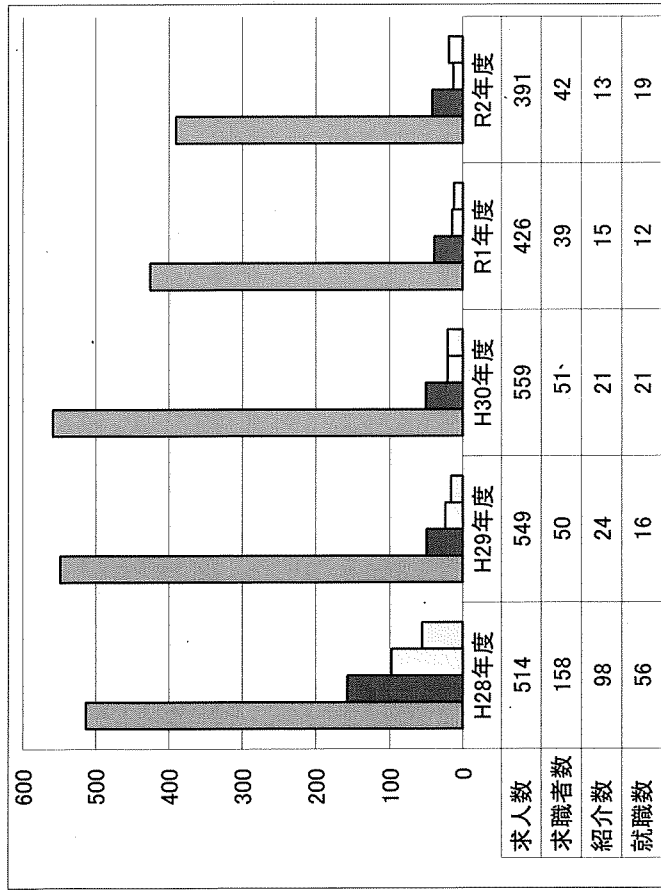
福祉人材養成事業として、介護支援専門員の模擬試験、受験対策講座を開催しました。また窓口相談等で資格取得方法や講習先情報等の提供も行いました。

少子高齢化、労働人口減少が進行する中で、介護・福祉人材の確保は喫緊の課題である為、今後は更なる福祉・介護の新規求職登録者の確保と、潜在有資格者の掘り起こしに取り組み、併せて県人材センターと連携し、高校での保育・介護セミナーや介護職の新たな担い手として介護助手の取組みを進め、介護職のPRを行っていきます。

【福祉人材養成事業】介護支援専門員模擬試験…1回7名受験、介護福祉士模擬試験…1回15名、受験対策講座…1回9名

【啓発広報事業】社協だより掲載（四万十市、土佐清水市、宿毛市） 行政広報掲載（四万十市、宿毛市）

【運営委員会開催】令和3年3月16日 運営委員8名参加



2.総合的な相談・援助活動及び権利擁護の推進

⑦福祉・介護人材マッチング機能強化事業（福祉人材バンク事業サービス区分〈職員1名兼務〉）

《 県社協受託金 2,650,000円 市補助金 3,559,866円 決算額 6,209,866円 》

幡多人材バンクにおけるマッチング機能の強化及び施設・事業所における職員の定着促進を目的として、求職者への支援や施設・事業所への助言を行いながら、対象者に応じた細やかなマッチングの実施や就職後のフォローアップ、働きやすい職場づくりへの支援等を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で事業所訪問が思うようにできず、面会も禁止となるなど非常に対面でのサポートが難しくなっており、電話での聞き取りができず入職者の思いや悩みを電話で聞く形となりました。就職後のフォローアップも対面での聞き取りができませんが、新型コロナウイルスの影響で4回中止となっています。ハローワークセミナーについては毎月開催していますが、新型コロナウイルスの影響で4回中止となっています。

	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	備考
延訪問件数(件)	121	45	50	23	7	
学校訪問件数(件)						
訪問日数(日)	33	23	23	17	5	
ハローワークセミナー開催(回)	12	12	12	10	7	1回は参加者なし
延参加者(人)	73	57	30	52	14	
* キャリア教育支援事業						
延福祉職場体験者(人)	6	6	5	5	4	

3.在宅福祉サービスの充実

①高齢者はつらつサービス事業 (はつらつデザイナーサービス事業 (はつらつデザイナーサービス事業サービス区分))

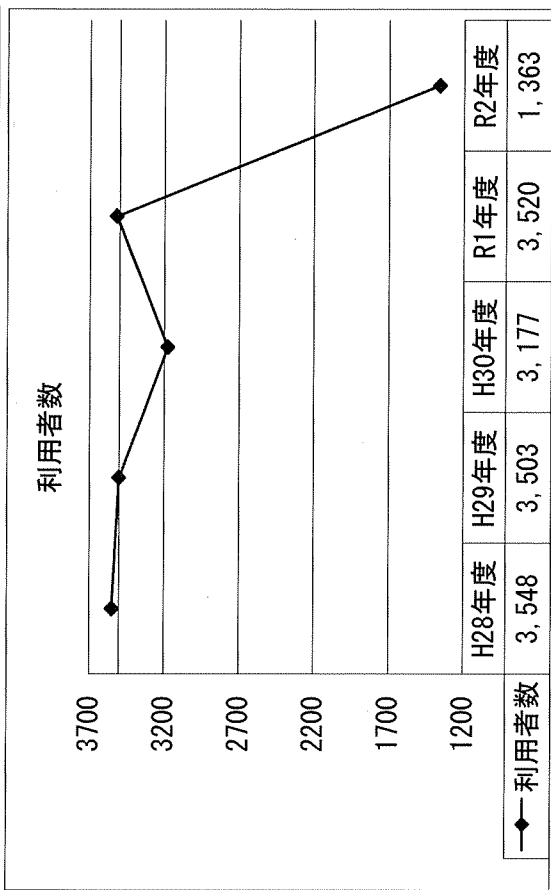
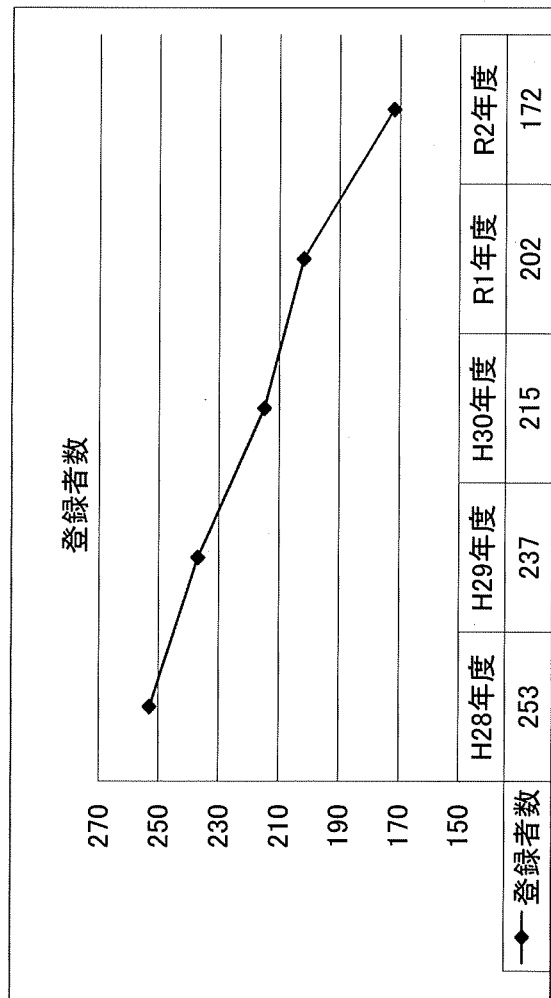
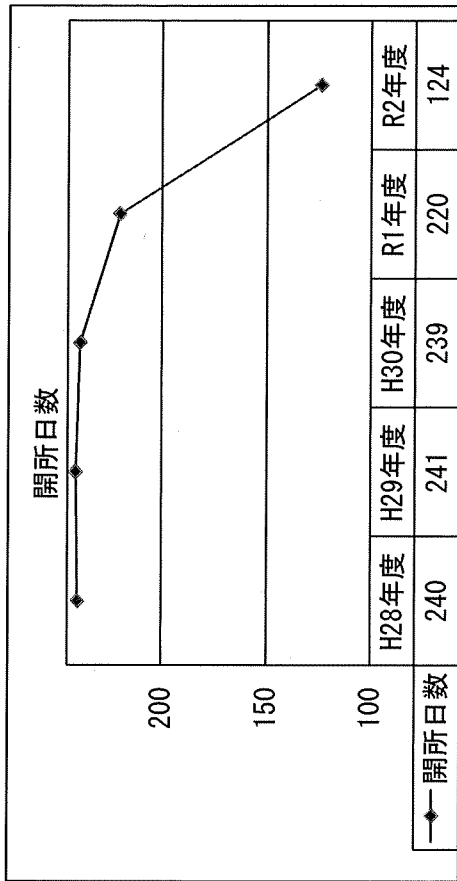
〈職員1名 再雇用職員1名 パート1名〉

《市受託金4,225,300円 市補助金2,207,000円 利用料1,090,400円 サービス区分間繰入金収入550,094円 決算額 8,072,794円》

介護保険非該当の利用者(65歳以上の高齢者)に対し、健康チェックや創作活動、レクリエーション、日常必需品の買出しなどのサービスを提供し、高齢者が楽しく生きがいをもてるよう事業を実施しました。今年度からは、週3日(火・水・木)の開所となり、利用回数が月2回から月1回の利用となっています。

利用については社協だより、広報等で呼びかけていますが、市内の介護サービス等の充実もあり、年々減少している状況です。

新型コロナウイルス感染症の影響で4月・5月は休止し、毎年行っていた小学校との交流も中止となりました。また、再開後も感染拡大を懸念して利用を中止する方が多くおり、利用者数は減少しています。



3.在宅福祉サービスの充実

②通所型サービスC事業

(はつらつデイサービス事業サービス区分)

<他業務と兼務 職員 1名 再雇用 1名>

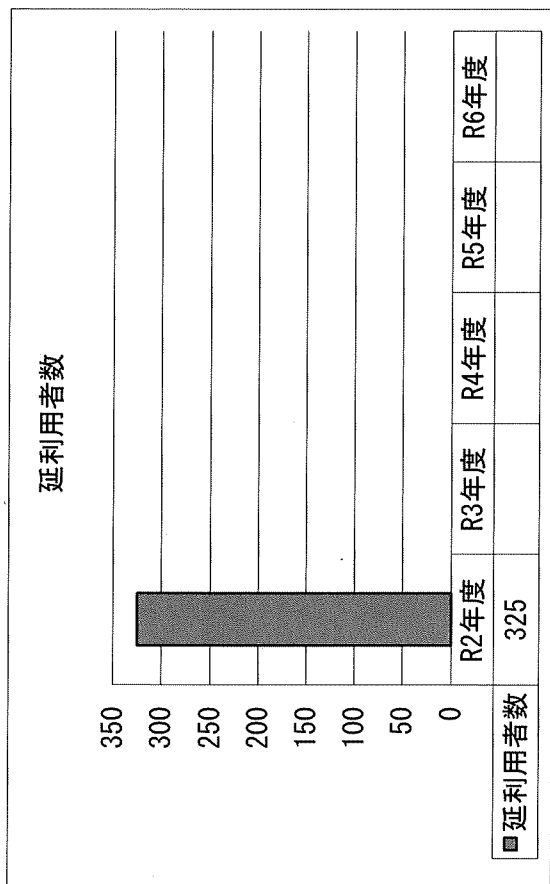
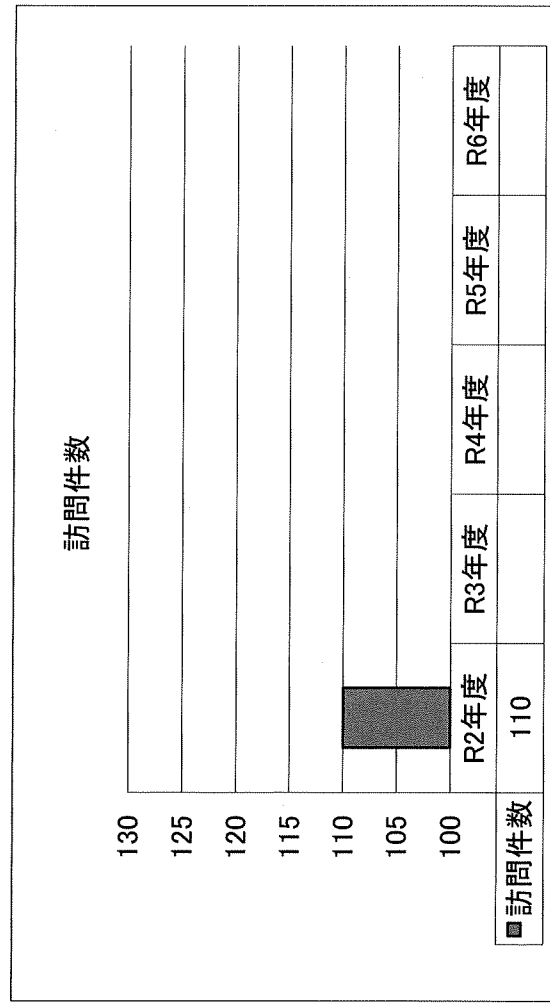
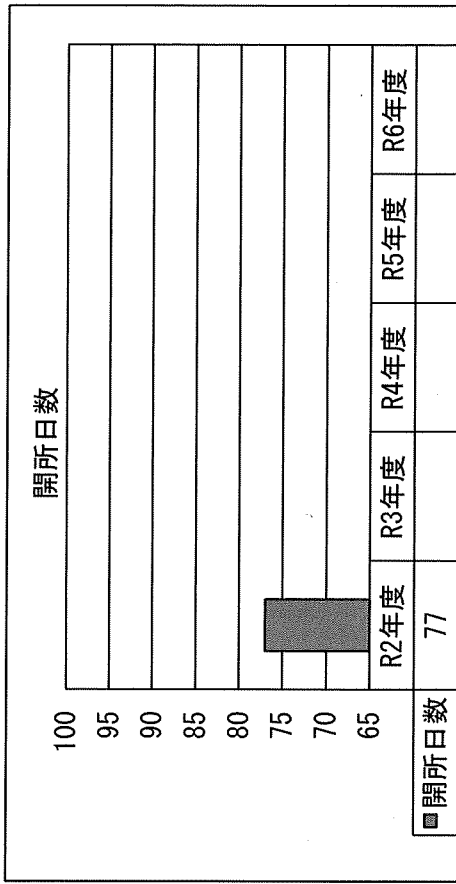
《 市受託金 5,469,717円 利用料 97,500円 決算額 5,567,217円 》

利用者が有する能力に応じて、できる限り居宅において自立した日常生活を営む事ができるよう、利用者の心身等を踏まえ、要支援状態の軽減や悪化の防止、要介護状態となる事を予防する為に、本年度7月より”できないことができるように、できることはもつとできるよように”をモットーに新規事業として、実施致しました。

1ヶ月3ケ月、原則5名以内で、週2回の通所により、下肢筋力を鍛える運動を中心に行う他、ストレッチや全身体操なども取り入れ、安全に効果的に取り組む内容となっております。

修了者からは、「転倒する事なく、安定した歩行ができるようになった」「あったかふれあいセンターに行って、運動を続けたり、友達と交流する事が楽しめるようになった」等の変化が見られています。今後高齢者の活発的な生活の促進に繋げていけるよう努めて参ります。

20
・利用者実数 13名



3.在宅福祉サービスの充実

③まちなかサロン（社会福祉事業サービス区分）

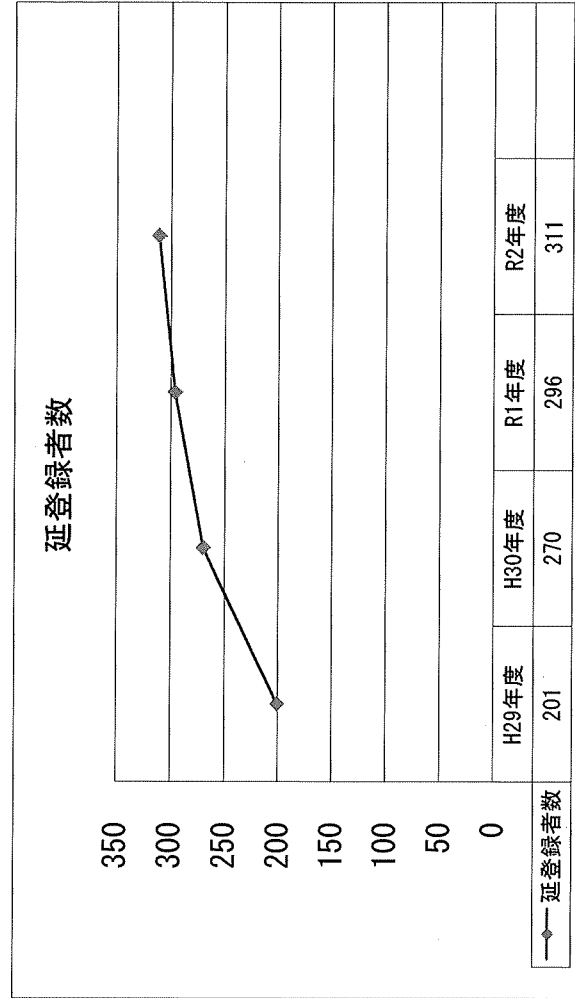
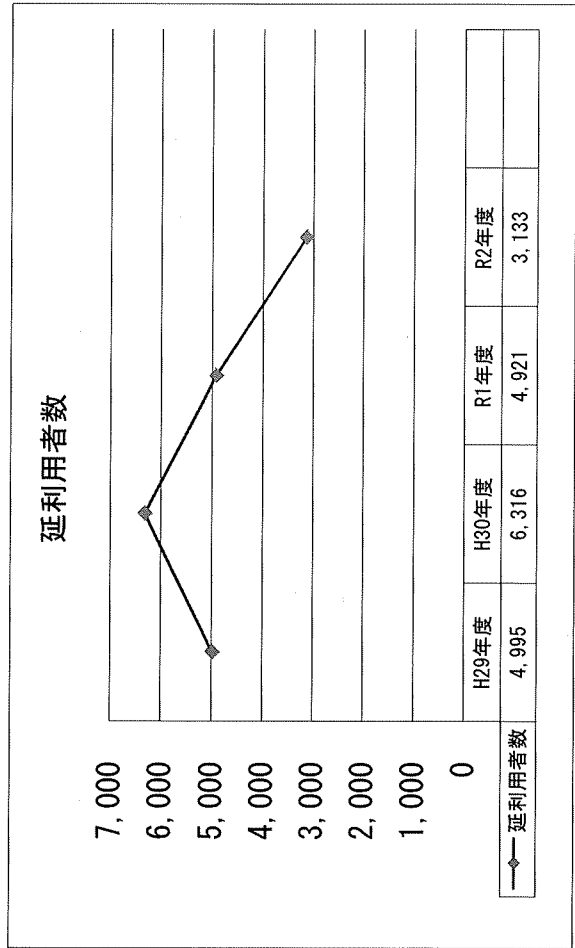
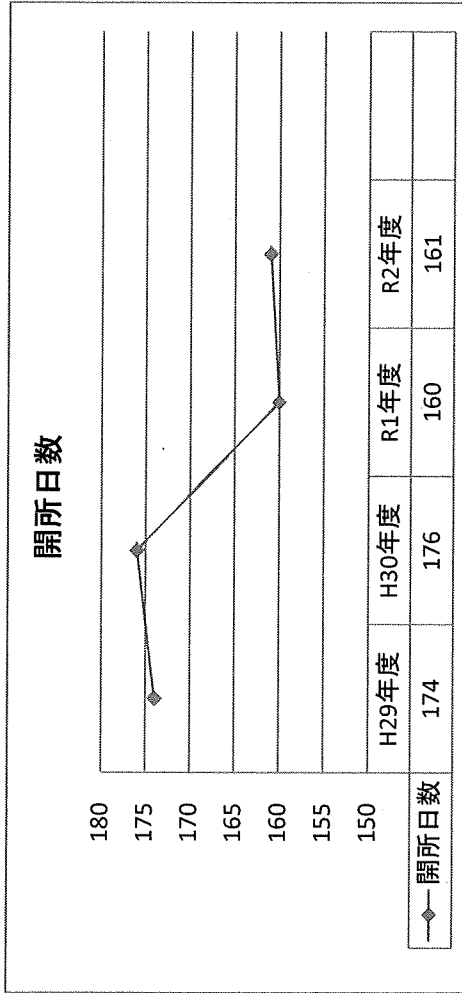
〈他業務と兼務 職員1名 パート職員4名〉

《 市受託金 4,224,518円 利用料収入 301,000円 決算額 4,525,518円 》

65歳以上の高齢者の方を対象に、自主的な介護予防、生きがいづくりの推進を目的に、いつでも・気軽に・誰もが・自由に入入りができる集いの場を提供しております。

コロナウイルス感染症防止の為、4月1日から5月20日迄事業は休止してまいりました。再開後は、コロナウイルス感染症防止の為の環境整備や3密にならないように注意しながら、参加者には手洗い・マスク着用を呼びかけ、体温・体調の確認を行いながら実施しています。水曜日を除く介護予防体操を中心に、利用者の希望に応じてカラオケ、卓球等の他、うたごえサロン・俳句会等のイベントも感染予防に気を付けながら開催しました。

新規利用者の申請が少くない為、新しくチラシを作り市役所、居宅介護支援事業所、病院等に配布したり、民生委員の方々にPR活動をしてきました。また、次年度も引き続き、広報等やPR活動を行う予定です。



3.在宅福祉サービスの充実

④訪問入浴事業（介護保険事業サービス区分）

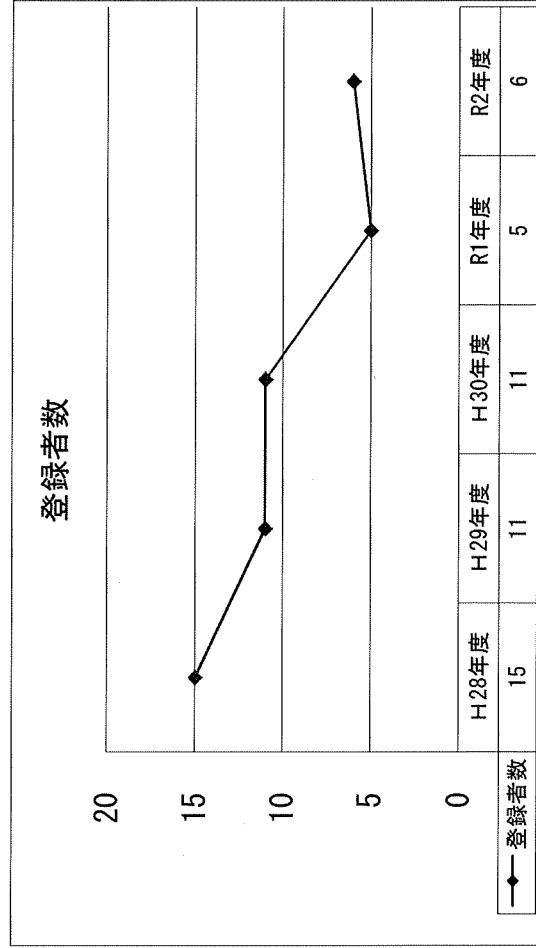
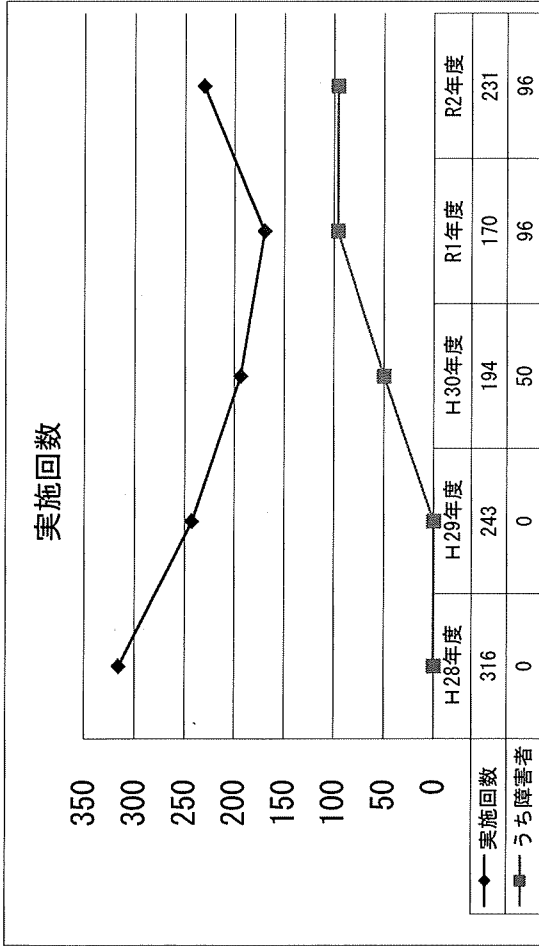
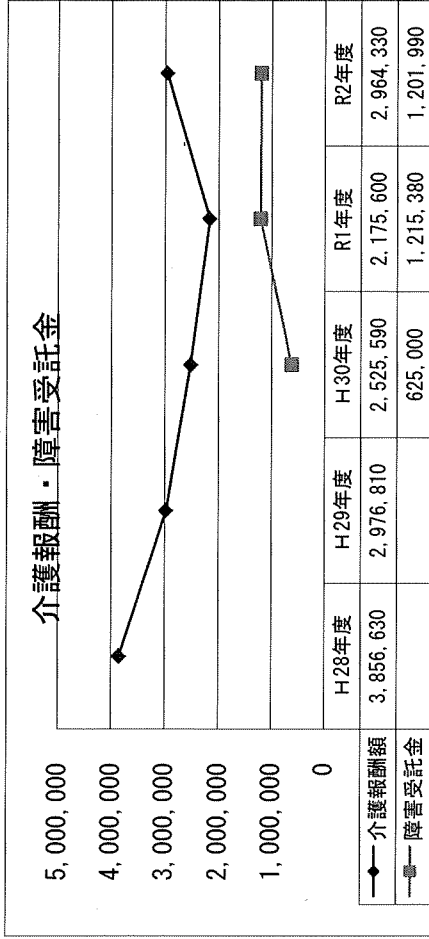
《介護保険事業収入 2,964,330円 市補助金 1,492,134円 身体障害者事業受託金収入 1,201,990円 コロナ関連交付金 180,000円 決算額 5,838,454円》

〈職員1名兼務 パート2名〉

在宅で寝たきりの方等に対し、訪問してベットの横に浴槽を設置し、入浴サービスを提供しています。利用者だけでなく、介護されている家族へのメンタル面での配慮等、介護負担を軽減するようなコミュニケーションを行い、安心・安全を心がけて週2回（火・金曜）サービスを提供しています。

登録者は、施設入所や入院で減少傾向ではありますが、利用回数の増により、収入も増加しております。障害福祉サービスの利用が定着し、受託金収入も安定しております。

- ・介護保険サービス実利用者実数 5名
- ・障害福祉サービス " 1名



3.在宅福祉サービスの充実

⑤障害者支援センター事業（障害福祉事業サービス区分）

〈職員1名〉

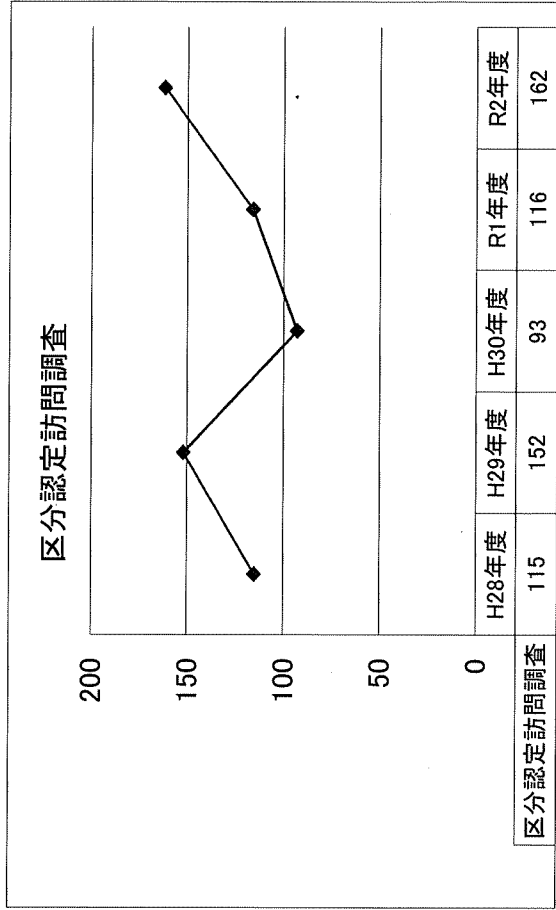
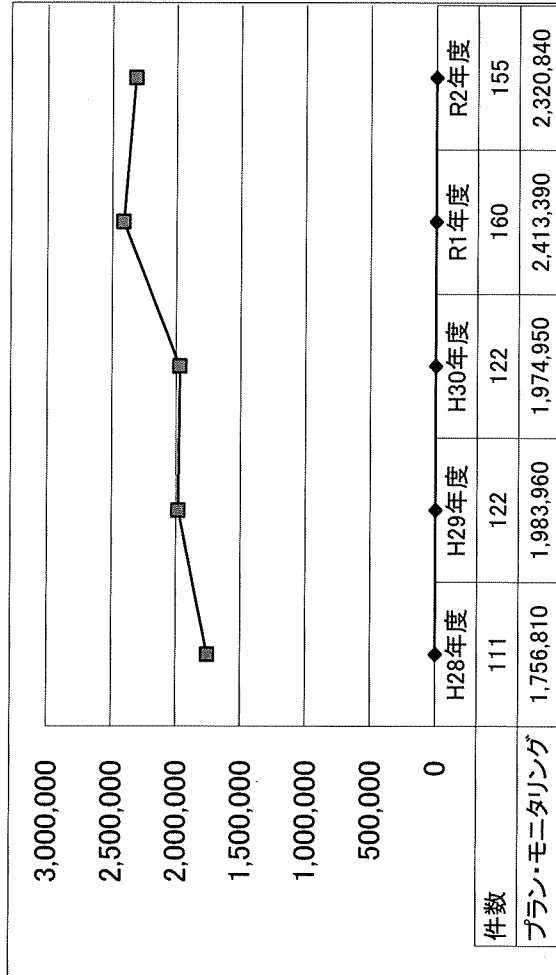
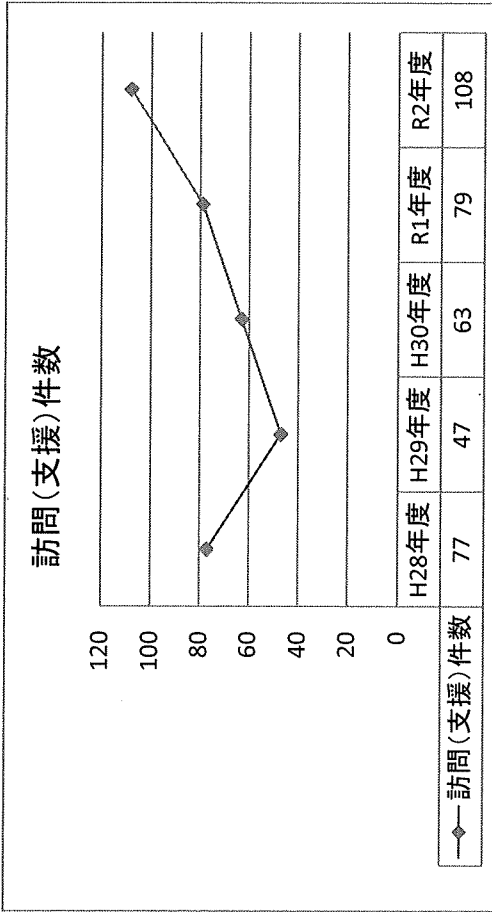
《市受託金 4,324,869円 障害支援区分認定調査 896,500円 サービス計画報酬 2,320,840円 コロナ関連交付金 324,000円 決算額 7,866,209円》

支援センター業務として、電話や来訪、電話や来訪、訪問等で身体、知的、精神障害者の生活相談に応じ、関係機関につなぐ等の連絡調整や支援困難ケースにおいては申請書類の代行や同行等の直接的支援を実施しております。また、四万十市から委託を受けて障害支援区分認定調査も依頼に応じ実施しております。

相談支援事業所として、障害福祉サービスを利用するために必要なサービス利用計画の作成や調整、定期的なモニタリング（計画の見直し）等を行っております。

業務の実施について、コロナ感染症の影響で面会制限や電話での聞き取り等で行うことになりましたが、相談者や認定調査依頼は多くあり、例年通りの件数を行いました。

- ・令和2年度相談支援事業所新規契約者 7名
- ・サービス利用終了・休止 7名
- ・令和2年度3月末実質利用者 64名



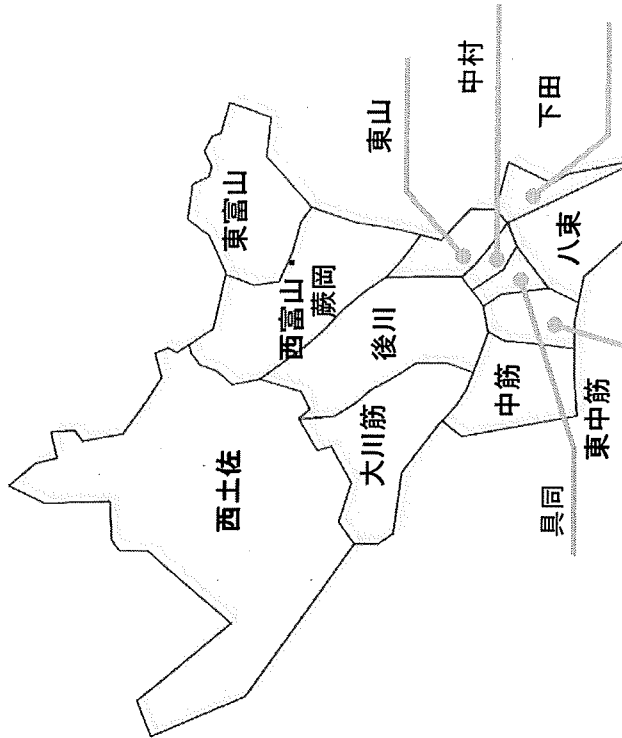
4.法人運営と地域福祉計画の推進

②第3期四万十市地域福祉計画の進捗状況等（地域福祉活動サービズ区分）

R2年4月に策定した四万十市地域福祉計画を着実に進めていくため、市内を12圏域に分けた地域座談会を設置、各地域の実態に即した小地域福祉活動計画を策定していきます。R2年度は計22回の座談会を実施し、延べ278名の地域住民の方に参加していただきました。地域座談会においても、各地域からユニークなアイデアが出されており、引き続き、地域座談会の取り組みを通して、地域の実態に即した多様な小地域福祉活動（支え合い活動やふれあいの機会づくり等）の創出を推進していきます。

地域座談会の運営には、地域福祉ネットワーク事務局会議等で行政職員とも定期的に情報共有しています。また、座談会自体にも、福祉事務所・高齢者支援課・保健課職員の参加があり、充実したサポート体制のもと、協働して取り組むことができました。

▼地域座談会の圏域設定



▼R2年度地域座談会の参加者の状況

圏域	第1回	第2回	第3回	計
中村	16人	13人	-人	29人
下田	16人	7人	-人	23人
東山	16人	15人	-人	31人
具同	17人	-人	-人	17人
東中筋	15人	5人	-人	20人
後川	17人	12人	-人	29人
八束	13人	8人	13人	34人
西富山・藤岡	13人	9人	-人	22人
中筋	8人	8人	-人	16人
東富山	16人	13人	-人	29人
西土佐	15人	13人	-人	28人
計	162人	103人	13人	278人

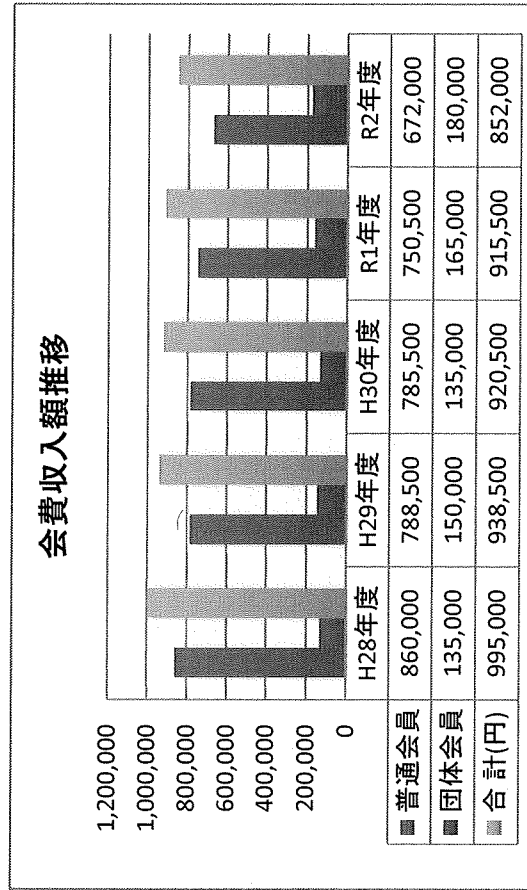
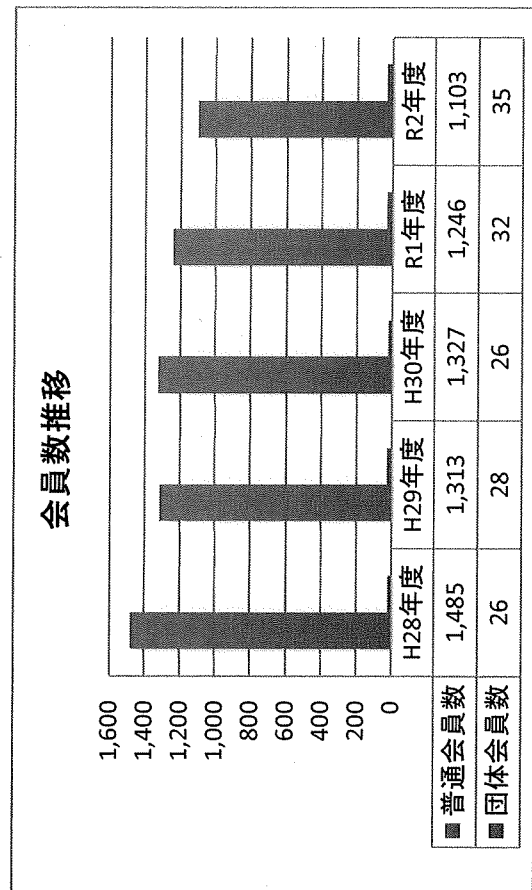
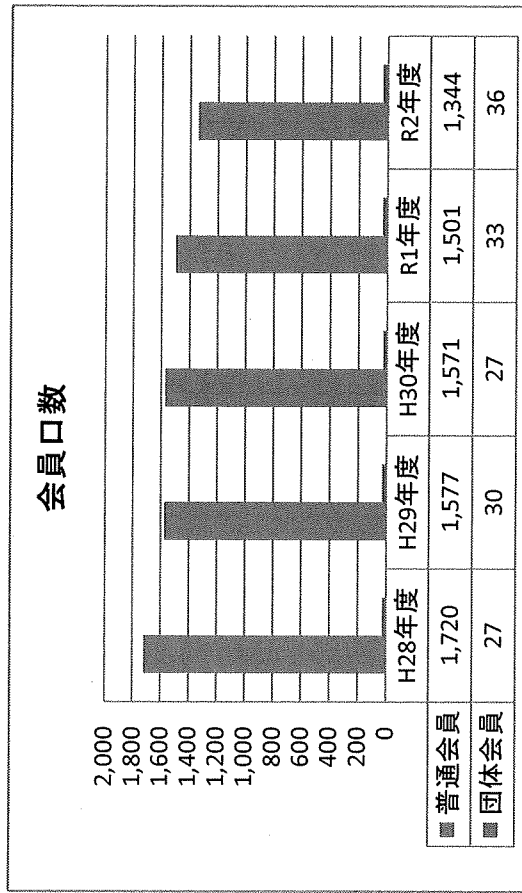
4.法人運営と地域福祉計画の推進

③社協会員加入状況（法人運営サービス区分）

《 会費収入額 852,000円 》

民生委員をはじめボランティアや関係機関等へ協力を依頼し、また社協だよりによる呼びかけ等を行い会員の加入促進を行いました。

結果として前年度より団体会員は増加しているものの、普通会员数がかなり減少しました。年々普通会员数が減少傾向にあり、経済状況や社協会員の周知不足が原因として考えられますが、会員を増やすための検討を引き続き行っていきます。



4.法人運営と地域福祉計画の推進

④社会福祉事業（法人運営サービス区分他）

事業経営方針・改正された定款に基づき、理事会、評議員会、各種運営委員会を開催しました。以下が会議の状況となっております。

月日	会議内容等	場所
5月26日	【令和元年度福祉協働】会長・監事2名・事務局2名 計5名	福祉センター
5月5日	【第1回理事会】理事9名・監事2名・事務局4名 計15名 ①令和元年度事業報告及び法人会計決算について ②評議員会の招集について 報告事項 ①第2期地域福祉活動計画・第3期地域福祉計画について ②各種補立金等の状況について ③社会福祉充実計画について	"
5月6日	【第1回評議員会】評議員9名・理事1名・監事1名・事務局2名 計13名 ①令和元年度事業報告並びに法人会計決算について 報告事項 ①第2期地域福祉活動計画・第3期地域福祉計画について ②社会福祉充実計画について	"
5月8日	【成年後見事業運営委員会】委員5名・会長・会長・事務局3名 計9名 ①令和元年度事業報告及び現在の状況等について ②相続による登記手続きについて	"
5月11日	【第2回理事会】理事8名・監事2名・事務局5名 計15名 報告事項 ①職務の執行状況について ②パートタイム・有期雇用労働法に伴う規程の変更について ③生活福祉資金コロナ特別貸付状況について ④地域福祉計画（座談会）について ⑤災害発生時に備えるために災害ボランティアセンターの基盤強化要望書の提出について ⑥西土佐地域社会福祉大会に替わる事業について	"
5月25日	【小口生活資金貸付事業運営委員会】委員4名・事務局2名 計6名 ①令和元年度の資金貸付状況等について ②令和3年度の貸付限度額の設定について ③小口生活資金貸付事業実施要綱一部改正について	"

月日	会議内容等	場所
10月14日	【配食サービス運営委員会】委員3名・事務局3名 計6名 ①令和元年度・令和2年度実績報告について ②ボランティアの確保について	多目的ダイアセンター「一条の里」
11月11日	【第3回理事会】理事9名・監事2名・事務局5名 計16名 ①第1次補正予算（案）について ②役員慶弔規程の改廃について ③評議員会の招集について 報告事項 ①職務の執行状況について ②職員の給与等に関する規程の一部改正について ③小口生活資金貸付事業実施要綱の一部改正について ④パートタイム・有期雇用労働法に伴う規程の改正（案）について ⑤イラストレーションの無断使用について ⑥生活福祉資金コロナ特別貸付状況について ⑦災害発生時に備えるために災害ボランティアセンターの基盤強化要望書提出の結果について	福祉センター
11月12日	【第1回臨時評議員会】評議員10名・理事1名・事務局2名 計13名 報告事項 ①1次補正予算（案）について ①イラストレーションの無断使用について ②生活福祉資金コロナ特別貸付状況について ③災害発生時に備えるために災害ボランティアセンターの基盤強化要望書提出の結果について	"
11月18日	【第4回理事会】理事7名・監事2名・事務局5名 計14名 ①令和3年度事業計画及び法人会計予算の同意及び評議員会への提案の承認について 報告事項 ①職務の執行状況について ②職員再雇用規程の一部改正について ③契約職員等就業規程の一部改正について	"
11月26日	【第2回評議員会】評議員9名・理事1名・事務局2名 計12名 ①令和3年度事業計画及び法人会計予算について	"

4.法人運営と地域福祉計画の推進

⑤社会福祉事業（法人運営サービス区分他）

役員等等の資質向上のため、下記のとおりコロナ対応としてオンライン受講も取り入れ研修会等へ参加しております。また、職員会等を開催し、研修報告や課題等を出し合い情報共有に努めています。

月	日	研修等名称	市町村名	場所	参加者数
4	8	第1回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
	17	第1回臨時チーフ会	"	"	5
5	13	第2回チーフ会	"	"	5
	13	第1回職員会	"	"	13
6	1	第1回業務連絡会	"	"	6
	8	障害支援区分認定調査員新任研修	高知市	保健衛生総合庁舎	1
	16	第1回福祉人材センター・バンク業務連絡会	高知市	ふくし交流プラザ	2
	2	社会を明るくする運動講演会	四万十市	文化センター	1
7	6	第1回社会福祉協議会法人後見連絡会	高知市	ふくし交流プラザ	2
	8	第2回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
	8	第2回職員会	"	"	13
	20	市町村社協職員基礎研修	高知市	ふくし交流プラザ	1
8	29	安全運転管理者等講習	黒潮町	ふるさと総合センター	1
	3	ブロック別社協会長等意見交換会	"	"	3
	12	第3回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
	12	コミュニティソーシャルワーカー養成研修第1回企画会	高知市	ふくし交流プラザ	1
9	14	市町村社協中堅職員研修	"	"	1
	26	第3回総務・会計部会	"	"	1
	28	第1回四万十市社会福祉法人連絡会（四社連）	四万十市	社会福祉センター	3
	4	精神科医療を考える会	"	"	1
9	7	第2回業務連絡会	"	"	6
	9	第3回職員会	"	"	14
	24	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修会	高知市	ふくし交流プラザ	3

月	日	研修等名称	市町村名	場所	参加者数
9	30	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修会	高知市	ふくし交流プラザ	3
	30	災害ボランティアセンター市長交渉	四万十市	市役所	5
10	7	第4回チーフ会	"	"	5
	7	地域福祉推進セミナー	"	"	3
	8	生活福祉資金貸付制度説明会	"	"	3
	12	コミュニティソーシャルワーカー養成研修スタートアップ研修会	高知市	ふくし交流プラザ	3
	14	フレイル予防講演会	四万十市	社会福祉センター	2
	19~20	相談支援従事者研修	"	"	1
	22	コミュニティソーシャルワーカー養成研修第2回企画会	高知市	ふくし交流プラザ	1
	26	第4回総務・会計部会	"	"	1
	6~7	コミュニティソーシャルワーカー養成研修実践研修	"	"	2
	11	第5回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
11	第4回職員会	"	"	14	
11	16	日常生活自立支援事業専門員研修	高知市	ソーレ	2
	17	四国地域福祉実践セミナー実行委員会	宿毛市	社会福祉センター	2
	18~19	相談支援従事者初任者研修	高知市	ふくし交流プラザ	1
	24	第2回福祉人材センター・バンク業務連絡会	高知市	ふくし交流プラザ	2
12	26	地域の見守り・支え合いのしくみづくりに関する研修会	四万十市	樺多総合庁舎	3
	3	生活支援コーディネーター研究協議会	四万十市	社会福祉センター	3
	7	第3回業務連絡会	"	"	6
	7	コミュニティソーシャルワーカー養成研修第2回企画会	高知市	ふくし交流プラザ	1
12	7	成年後見制度関係機関との連絡協議会	四万十市	家庭裁判所	1
	15	相談支援従事者初任者研修	高知市	ふくし交流プラザ	1

4.法人運営と地域福祉計画の推進

月	日	研修等名称	市町村名	場所	参加者数	月	日	研修等名称	市町村名	場所	参加者数
1	13	第6回チーフ会	四万十市 福祉センター	社会	5	2	15	地域の支え合いを考える研修会	四万十市	市役所	2
	13	第5回職員会	"	"	13		16	四国地域福祉実践セミナー実行委員会	宿毛市	社会福祉センター	2
1	16~17	公認初級障がい者スポーツ指導員養成講習会	黒潮町	青少年の家	2	2	17	市町村社協事務局長等セミナー	高知市	ふくし交流プラザ	2
	19~20	相談支援従事者初任者研修	高知市	ふくし交流プラザ	1		22	介護分野における人材確保のための雇用管理改善推進事業 経緯交流会	高知市	サンピアアゼリーズ	1
1	29	第2回四社連	四万十市	社会福祉センター	3	2	25	第5回総務・会計部会	高知市	ふくし交流プラザ	1
	1	第4回フレッシュ部会	土佐市	つないで	1		25	第3回四社連	四万十市	社会福祉センター	2
2	2	仁淀川町フレイルチェック視察研修	仁淀川町	役場	1	3	26	災害ボランティアセンター中核スタッフ研修会	"	"	2
	4	高知県法人後見担当者養成研修	四万十市	社会福祉センター	3		1	日常生活自立支援事業 多ブロック専門員連絡会	四万十市	文化センター	1
2	6~7	公認初級障がい者スポーツ指導員養成講習会	黒潮町	青少年の家	2	5	3	コミュニティソーシャルワーカー養成研修 実践研修	高知市	ふくし交流プラザ	2
	9	いの町社会福祉協議会第3回職員研修	いの町	すこやかセンター	2		5	第2回臨時チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5
2	10	第7回チーフ会	四万十市	社会福祉センター	5	6	6	第3回業務連絡会	"	"	6
	12	高知県法人後見担当者養成研修	"	"	3		24	第6回職員会	"	"	13

その他、打ち合わせをはじめ担当者や報告会、ケース検討会など、会議や各種団体の定例会などにも多く出席しています。

4.法人運営と地域福祉計画の推進

⑥指定管理者施設運営事業（指定管理者施設サービス区分）

令和2年度 多目的デイケアセンター「一条の里」

《市受託金収入（指定管理料） 決算額 1,751,132円》 《正職員1名兼務》

多目的デイケアセンター「一条の里」で行っている事業については、次のとおりで各実績については前述のとおりです。

- ① 配食サービス事業
- ② まちなかサロン事業
- ③ はつらつデイサービス事業
- ④ 通所型サービスC事業
- ⑤ 障害者支援センター事業（相談支援事業）
- ⑥ 四万十子ども食堂（第2土曜日）年間10回 子ども426人・大人558人・ボランティア17157人 計1,141人
年間13回予定（コロナ2回・雪1回中止） テイクアウト方式

令和2年度 四万十市総合福祉センター

《市受託金収入（指定管理料）決算額 749,272円》 《正職員1名兼務》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
会議研修室	2	1	4	4	14	5	3	2	0	6	10	3	54
福祉関係事務室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
応接室・相談室	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
休憩室	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	2	1	4	4	14	5	4	2	0	6	10	3	55

4.法人運営と地域福祉計画の推進

⑧公益事業（福祉センター管理運営サービス区分）

令和2年度 社会福祉センター利用状況（免除）

月	大会議室			小会議室			老人憩いの室			研修室Ⅰ			研修室Ⅱ			小計			合計			
	市	団体	社協	市	団体	社協	市	団体	社協	市	団体	社協	市	団体	社協	市	団体	社協				
4			1			3						2				1			0	3	10	13
5						3										3			0	3	6	9
6	5		4	2		3					3	6			4	9			13	7	20	40
7	3	1		1		3				2	3	3			4	5			7	8	9	24
8	12		8	3		3			1	8	2	2			3	4			31	6	16	53
9	5		3	1		4					3	3			4	3			8	8	11	27
10	15		2	3		2			2	8	2	2			5	3			38	7	9	54
11	7		4	3		3				4	6	6			5	5			16	8	19	43
12	7		1	3		3				4	3	3			2	7			20	5	12	37
1	11		7	4		3				8	1	1			4	4			25	7	13	45
2	9		1			3				1	3	3			5	1			10	8	6	24
3	6		2	2		4				2	4	4			5	3			14	10	11	35
合計	80	1	33	22	37	26	2	0	3	40	35	38	41	45	182	80	142		404			

市
団体
社協

教育委員会・教育研究所・行政相談
精神障害者家族会「虹の会」・朗読の会虹・中村手話サークルわかあゆ・認知症家族の会たんぽぽの会
社協事業・民協・日赤・共募・人材バンク・老人クラブ・身障連・ボランティア連絡協議会・四社連・ボランティア勉強会